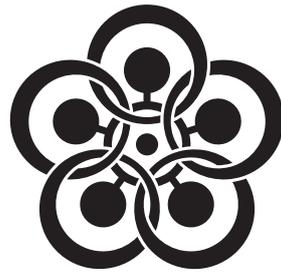


東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報

2022年度



2024年1月

はしがき

2022年度より、東京医科歯科大学は、世界最高水準の教育研究活動の著しい向上とイノベーション創出を図ることを目指した「指定国立大学法人」の指定を受けました。さらに、2024年度を目途に東京医科歯科大学と東京工業大学は「東京科学大学（仮称）」という一つの大学に統合します。

これを受けて、本学では、理工学との融合が活性化し、世界最高水準の教育研究活動の向上とイノベーション創出を目指す土壌が広がります。保健衛生学研究科においても、世界最高水準の研究者育成が第一の使命となるとともに、教員一同も世界最高水準の教育研究者として活動展開し、イノベーションの創出が求められます。

このミッションを達成すべく、保健衛生学研究科は看護先進科学専攻として、東京医科歯科大学病院看護部をはじめとした看護実践者と強い連携・協働を図るとともに、本学医学部・歯学部との横のつながり、さらには理工学との連携を強化しながら、看護学の発展と社会への寄与を目指していきます。

本研究科の特徴である5年一貫課程では、5年間の継続的な学修による学位（修士号と博士号）の取得、最初の2年間で修士号取得、他大学での修士号取得者に対しては2020年度から開始した編入学制度（博士後期課程からの進学に相当）による後半3年間の在籍期間を経た博士号取得、といった多様で柔軟な対応が可能な課程となっています。

コロナ禍に加えて超高齢人口減少社会や科学技術が大きく進展する変革の時代の中、1人1人の個別性を大切にし、その人の生活と命を支える学問である看護学に期待される役割はより大きくなると確信しております。

今後も東京医科歯科大学保健衛生学研究科の教員・大学院生を含む各分野の構成員は、世界における看護界のリーダー的存在となることを目指し、本年報に記す活動実績が一層豊かになるよう、日々研鑽して参ります。

2024年1月吉日

東京医科歯科大学大学院

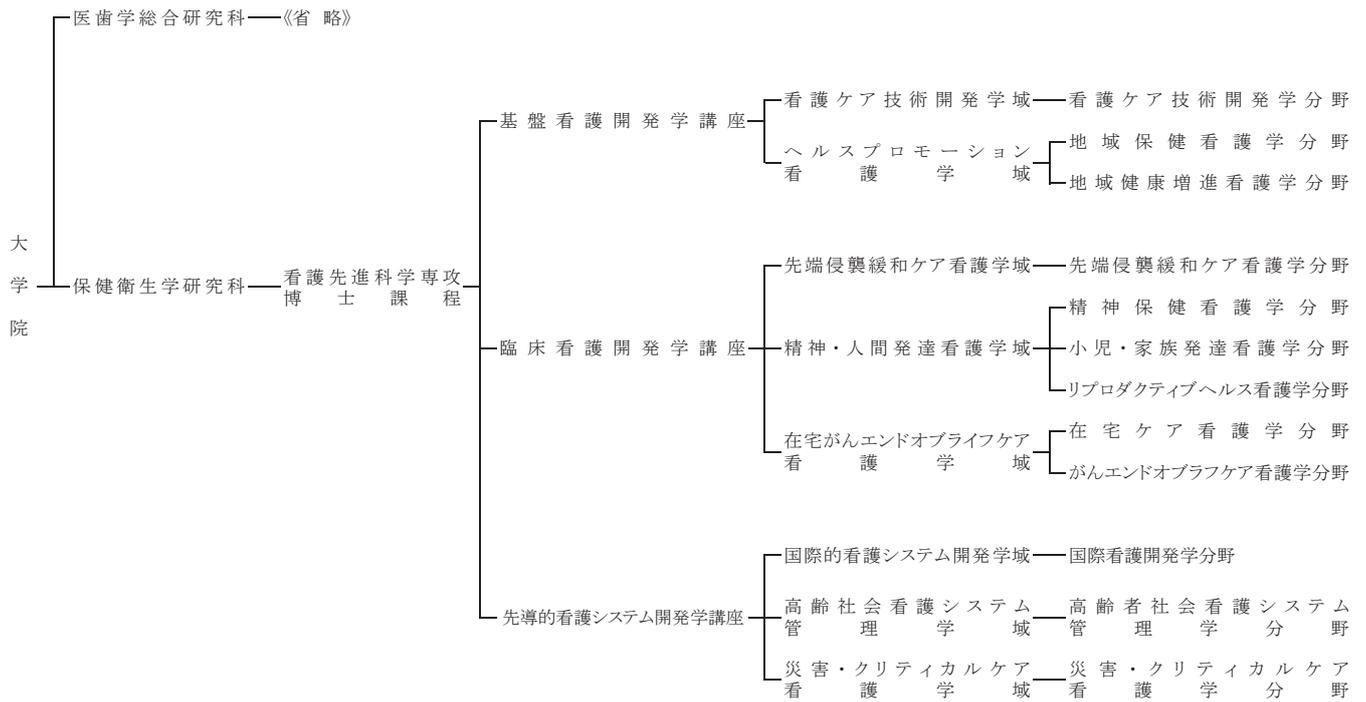
保健衛生学研究科長 福井小紀子

目 次

I. 機構図	2
II. 各教育研究分野における教育・研究	
看護先進科学専攻	
基盤看護開発学講座	
看護ケア技術開発学域	
看護ケア技術開発学分野	4
ヘルスプロモーション看護学域	
地域保健看護学分野	7
地域健康増進看護学分野	12
臨床看護開発学講座	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
先端侵襲緩和ケア看護学分野	15
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	19
小児・家族発達看護学分野	24
リプロダクティブヘルス看護学分野	27
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅ケア看護学分野	30
先導的看護システム開発学講座	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	36
高齢社会看護システム管理開発学域	
高齢社会看護システム管理学分野	40
災害・クリティカルケア看護学域	
災害・クリティカルケア看護学分野	45
III. 2022年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	50
IV. 2022年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文題目一覧表	53
V. 委員会委員名簿	55
VI. 就職状況一覧表（2023年3月卒業・修了者）	57

I. 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図 (2022年4月1日)



Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

看護ケア技術開発学

Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

教 授 柏木聖代
講 師 森岡典子
助 教 大河原知嘉子（～22年3月31日）、大河原啓文（22年4月1日～）

大学院生
5年一貫制後期課程
樺島稔
柴野裕子
古川彩子
勝又彩瑛
鈴木のどか

(1) 分野概要

ヘルスサービスリサーチ（Health Services Research）は、社会的要因、報酬体系、組織の構造（structure）やプロセス（process）、アウトカム（outcome）、医療の質、サービス利用、コスト、アクセシビリティ等を科学的に探究する学際的な研究分野です。
当分野は、エビデンスに基づく政策立案を推進するために、看護の立場からヘルスサービスリサーチに取り組み、その研究成果を世界に発信することを通じて、質の高い看護サービスが必要な人に提供される社会の実現の一助となることを目指しています。

(2) 研究活動

- 1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ
国や自治体レベルのデータ分析等を通じ、病院・施設・在宅等における主に看護サービスの質（インプット・プロセス・アウトカム）に関するヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。
- 2) リアルワールドデータを活用した看護サービスの質・政策評価研究
レセプトや電子カルテなどのリアルワールドデータを用いた学際的アプローチにより、看護サービスの質・政策評価にかかる研究に取り組んでいる。
- 3) 保健医療人材の需給推計および地理的分布に関する研究
看護職等の保健医療人材の需給推計、地域偏在や人材供給量の検証に取り組んでいる。
- 4) 看護実践の可視化・知識ベースの開発
優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論

の検討を行っている。

(3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、主にナーシング・ヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行っている。

1年次には専門科目の「人間の健康と看護」、「基礎看護学実習Ⅰ」、「看護制度論」を開講した。「人間の健康と看護」は看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基礎看護学実習Ⅰは本学病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指している。看護制度論では、国内外の政策立案に携わる看護職の活動の紹介もふまえ、看護職の法的位置づけと看護実践の特徴を知り、看護の機能と役割を理解するための基礎的知識を養うことを目的とする。

2年次は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講している。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指している。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いている。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。学内での発表にとどまらず、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なっている。

2) 大学院教育

大学院教育では看護ケア技術開発学特論Ⅰ・Ⅱ、および看護ケア技術開発学演習Ⅰ、看護政策学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当している。

ヘルスサービスリサーチに関する手法を学び、国内外の政策立案に資する研究成果を看護の立場から発信できるよう、指導を行っている。自身の研究テーマに加え、分野で取り組んでいる大規模研究プロジェクトへの参画等を通じ、専門的な知識や技術のみならず、研究者としての実践経験を積み重ね、国内外で活躍できる人材の育成を目指している。

(5) 臨床活動および学外活動

研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また国内外の他大学との共同研究や地域の組織や機関等との共同研究や研究支援を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Minoru Kabashima, Masayo Kashiwagi, Noriko Morioka. Biomechanical Analysis of Nurses' Touching Techniques According to Clinical Symptoms Journal of the Ochanomizu Association for Academic Nursing. 2022.09; 17(1); 1-16

2. Masayo Kashiwagi, Noriko Morioka. Determinants associated with the incidence of occupational accidents among visiting nurses at home-visit nursing agencies: Secondary analysis of cross-national survey data in Japan *Geriatrics & Gerontology International*. 2022.08; 22(8); 588-596
3. Yusuke Ota, Chihiro Tani Sassa, Masayo Kashiwagi, Chikako Okawara, Shuji Tohda, Ryoichi Saito. Complete Genome Sequence of an *Enterobacter rogenkampii* Strain with Reduced Carbapenem Susceptibility Isolated from a Home-Visit Nursing Agency *Microbiol Resour Announc*. 2022.08; e0035322
4. Ai Tomotaki, Noriko Morioka, Yasunobu Tsuda. Mapping instruments in Japanese for measuring evidence-based practice among clinical nurses: A scoping review *International Journal of Nursing Practice*. 2022.07; e13086
5. Morioka N, Kashiwagi M, Hamano J. Adherence to Personal Protective Equipment Use in Home-Care Service Agencies During COVID-19 in Japan: A Cross-Sectional Survey. *Journal of the American Medical Directors Association*. 2022.06; 23(6); 930-935
6. Noriko Morioka, Suguru Okubo, Mutsuko Moriwaki, Kenshi Hayashida. Evidence of the association between nurse staffing levels and patient and nurses' outcomes in acute care hospitals across Japan: A scoping review *Healthcare*. 2022.06; 10(6); 1052

[総説]

1. 森岡典子. 若手研究者のバトン 第 25 回 看護を可視化し政策に結び付け、臨床実践に還元する 看護研究. 2022.08; 55(4); 323-327

[講演・口頭発表等]

1. 深堀 浩樹, 大河原 啓文. 介護施設のエンドオブライフケアの質向上のために 高齢者施設・住まいの入居者の回避可能な救急搬送へのアプローチ 看護職の視点から. *日本エンドオブライフケア学会誌* 2022.09.01

[受賞]

1. 2022 年度第 1 回 せせらぎ賞, 一般財団法人 財団せせらぎ 助成事業(森岡 典子), 2022 年 08 月

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員 (大河原知嘉子), 東京医科歯科大学, 2014 年 04 月 01日 - 現在
2. 東京都訪問看護ステーション協会顧問 (柏木 聖代), 2015 年 07 月 01 日 - 現在
3. 日本在宅看護学会 理事 (柏木 聖代), 2015 年 09 月 - 現在
4. 日本医療・病院管理学会 事業委員会 (柏木 聖代), 2016 年 05 月 - 現在
5. なるほどテキストマイニング (大河原知嘉子), 医学書院, 看護研究, 2016 年 12 月 15 日 - 現在
6. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問 (柏木 聖代), 2017 年 08 月 - 現在
7. 日本混合研究法学会 編集委員 (大河原知嘉子), 2017 年 12 月 01 日 - 現在
8. 日本混合研究法学会 事務局 (大河原知嘉子), 2018 年 04 月 01 日 - 現在
9. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長 (柏木 聖代), 2018 年 06 月 - 現在
10. 日本混合研究法学会 理事 (大河原知嘉子), 2019 年 04 月 01 日 - 現在
11. 第 80 回日本公衆衛生学会学術集会一般演題査読委員(森岡 典子), 2021 年 08 月 01 日 - 現在
12. 日本看護科学会誌和文査読委員(森岡 典子), 2021 年 10 月 01 日 - 現在
13. リアルワールドデータを看護にどう生かすか, 株式会社医学書院, 週刊医学界新聞(森岡 典子), 2022 年 03 月 05 日

地域保健看護学

Community Health Nursing

教授	月野木 ルミ
助 教	津田 紫緒
大学院生	田沼 寮子
	巽 夕起
	本田 順子
	塩満 智子
	木村 光佑
	小野寺 春香
技術補佐員	河邊 優

(1) 分野概要

地域保健看護学分野では、公衆衛生分野を専門として、地域の健康課題解決や地域保健活動への貢献を目指し、教育・研究を行っている。

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を行い、保健師課程の教育では、探求心とリーダーシップを備えた、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。また、大学院教育では、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。

研究は、公衆衛生分野全般を範囲とし、特に循環器疾患とその危険因子について、関連の解明と予防方法の開発に力を入れ、多くのエビデンス創出に貢献している。

(2) 研究活動

公衆衛生を専門とし、地域の健康課題解決や地域保健活動へ貢献できるエビデンスの創出を目指した研究を行っている。主に循環器疾患と危険因子との関連の解明と予防方法の開発をテーマに、疫学研究、介入研究、保健統計という疫学手法を用いて研究を行っている。

主な研究テーマ

1. 循環器疾患と危険因子との関連の解明（疫学研究、保健統計）
2. 保健指導、健康教育の開発と実証研究
3. 循環器疾患、メンタルヘルス、産業保健、母子保健、がんの予防活動、社会実装研究
4. 公衆衛生活動の開発と評価
5. 地域健康づくりに関する研究
6. 労働者の親介護に関する研究

2022年度の具体的な研究活動内容は、

- ・次期健康日本 21 策定評価に向けて、循環器疾患危険因子の重積と健康寿命に関する疫学研究を行った。
- ・子育て中の被扶養者に対する生活習慣病予防健診の受診啓発に関する社会実装研究として、品川区の「20歳からの健康診査」の啓発活動を開始した。主には、ナッジを用いた健診啓発パンフレットを作成し区内の医療福祉機関、児童館、子育て支援活動団体、幼稚園などに配布し、行政や子育て支援団体と協働して子育て女性に対する受診啓発を開始し1年後の評価を行った。また年少人口割合が高い地域に焦点を当て、健診未受診の母親に対してインタビュー調査を行い、戦略を分析した。その結果健診受診率は変化がないものの、認知度の上昇が認めら

れた。また、健康に関する情報源と健診受診に関する論文を国際学術雑誌に掲載した。

・厚生労働省予防健康づくりに関する大規模実証事業に参画し、循環器疾患予防の食行動変容をめざした尿ナトリウム測定と保健指導、食環境整備に関する介入手法を開発し、2021年度より全国自治体と職域で実証研究を実施している。

・大学院生の研究活動では、保健師の感情労働に関する研究結果について、日本地域看護学会での発表、国際学術雑誌での掲載を行った。また、大阪医科薬科大学医療統計教室と共同研究で、福祉行政報告例による2015年～2020年の児童虐待相談件数の動向と地域差について研究を行い、その成果を日本疫学会学術集会で発表した。現在新たに、テレワーク労働者を対象とした身体活動量及び運動機能向上を目的としたオンライン型教育プログラム開発を学外研究者と共同で進めている。

・その他、日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリングレポート委員会 生活習慣病・公衆栄養グループと日本公衆衛生協会と共に、全国保健所における新型コロナウイルス蔓延による都道府県民健康栄養調査への影響について調査し、日本公衆衛生雑誌に論文掲載した。

・実務者に対する研究支援としては、行政保健師による精神障害者の就労支援をテーマに、精神病院保健師の論文研究指導を行い、日本公衆衛生雑誌に掲載された。重症心身障害者と訪問看護師の関わりをテーマに、在宅CNSの論文研究指導を行い、日本看護科学学会学術集会で発表した。

学部学生は「コロナ禍における「居場所づくり」としての子ども食堂の実践」（2022年度 石川瞳）、「子育て支援団体が行った「20歳からの健康診査」の1年間の啓発活動の評価と今後の戦略」（2022年度 若林佳奈）、「健診習慣のない子育て世代の被扶養者女性に対する「20歳からの健康診査」の受診促進方法の検討」（2022年度 坪井二千夏）、「ストレスチェックで高ストレスと判定された労働者に対する産業保健師の取り組み」（2022年度 友定あい）、「精神障害者の親に対して保健師が行う親なき後の生活に向けた支援内容」（2022年度 長澤帆花）をテーマに研究を行った。

大学院生は「訪問看護師への認知症高齢者ケアに関するICTを用いた教育効果の検討」（2021—2022年度 田沼寮子）、「発達障害児に対する言葉による行動抑制に関する研究」「福祉行政報告例による2015年～2020年の児童虐待相談件数の動向と地域差」（2021-2022年度 巽夕起）、「地域で働く保健師の対人援助における感情に関する研究」（2021-2022年度 本田順子）、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」（2021-2022年度 塩満智子）、「慢性疾患を有する成人 高齢者とその家族に対する訪問看護師によるACPの認識と実践内容 方法」（2021-2022年度 木村光佑）というテーマについて研究を行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させ、地域保健看護活動の理論・実践・研究の統合を目指して教育をしている。

2022年度の学部学生の実習は、保健師コース（選択制）の学生を対象とした。

地域保健として、東京都特別区では足立区（中央本町地域・保健総合支援課、竹の塚保健センター）、墨田区（向島保健センター）、台東区（台東保健所保健サービス課、浅草保健相談センター）、葛飾区（新小岩保健センター）、北区（北区保健所・王子健康支援センター、滝野川健康支援センター）の5区（8か所）で行った。

東京都特別区以外の地域保健では、千葉県柏市、船橋市で実習を行った。

学校保健として、筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、

産業保健として、株式会社JAL グランドサービス、キヤノン電子株式会社、日本航空株式会社、ヤマトシステム開発株式会社で実習（一部遠隔実習）を実施した。

2) 大学院教育

主に地域保健学特論Ⅰ、地域保健看護学演習Ⅰ、地域保健看護学特論Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。

公衆衛生施策立案に必要な海外の理論である community as partner の洋書を精読し議論する講義や、日本の公衆衛生施策の動向や公衆衛生活動における実際の学びから、公衆衛生活動の企画・実施・評価に必要な知識と技術を修得できるように教育した。また、公衆衛生分野の研究を遂行するために、大学院生の関心のある専門領域の実践家や研究者を招いて指導を受ける機会を設けて必要な教育を行った。

3) その他

保健師教育の卒後の教育研究のフォロー体制の構築として、地域保健看護学分野の卒論生、大学院生、本学保健師課程コース出身者を対象とした「東京医科歯科大学公衆衛生看護学 OGOB ネットワーク」というグループメーリングリストを作成し、初年度は2022、2021年度の卒業生から紹介を始めた。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を目指して、低学年から地域理解の観点をもち、地域のあらゆる対象に適切に関わる力を育む。

保健師課程の教育では、特別区や市町村の保健所、保健センター、学校保健、産業保健など多様な場での実習を通して、保健師活動の実際や保健師の役割を学ぶことができる。将来、探求心とリーダーシップを備え、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。

2) 大学院教育

公衆衛生上の多様な健康課題をタイムリーに解決し発展に寄与できる研究者育成を目指し、研究の基礎となる知識・技術を習得できる研究教育体制を整えている。

また、大学院時代から第一線の実践家・研究者の研究や活動に触れる機会も積極的に設け、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。具体的には、学内外との共同研究、英語論文や書籍精読、英語論文執筆方法の学習機会、研究手法の演習などがある。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tsukinoki Rumi, Murakami Yoshitaka, Imamura Haruhiko, Okamura Tomonori. Reliable Information from Health Professionals Encourages Urban Japanese Mothers' Continued Participation in Health Checkups HEALTHCARE. 2022.08; 10(8);
2. Kana Kimura, Akiko Sasaki, Shio Tsuda. Violent Victimization of Adults with Severe Mental Illness Living in a Community: An Integrative Literature Review 日本地域看護学会誌. 2022.01; 25(1); 21-30
1. 久保 彰子, 久野 一恵, 丸山 広達, 月野木 ルミ, 野田 博之, 江川 賢一, 澁谷 いづみ, 勢井 雅子, 千原 三枝子, 仁科 一江, 八谷 寛, 日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会生活習慣病・公衆栄養グループ. 新型コロナウイルス感染症蔓延による都道府県民健康・栄養調査への影響 日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会報告 日本公衆衛生雑誌. 2022.08; 69(8); 586-594
2. 西谷 梨花, 田淵 紗也香, 月野木 ルミ. 行政保健師による精神障害者の就労継続支援の内容 日本公衆衛生雑誌. 2022.07; 69(7); 536-543
3. 須釜 真由美, 内宮 律代, 種市 ひろみ, 堀之内 若名, 望月 由紀, 谷口 恵美子, 塩満 智子, 平井 玲子, 岡本 佐智子. 【新カリキュラム対応で新たに開発された「基礎看護学」と「地域・在宅看護論」のシラバスを探る】(Part1.) 各教育機関の新たな「基礎看護学」のシラバスを知る 新カリキュラムにおいて新たに開発した「ヒューマンケア基盤実習」看護展望. 2022.03; 47(4); 0302-0305

[書籍等出版物]

1. 月野木ルミ. 新 高等保健体育 指導ノート 保健編 1 現代社会と健康. 大修館書店, 2022.04 (ISBN : 978-4-469-66334-1)

[総説]

1. 津田紫緒, 岡本美和子, 矢郷哲志, 岡光基子. 「コロナ禍にあって見えてきたこと」コロナ禍における地域の子育て支援策 乳幼児医学・心理学研究. 2022.03; 30(2); 93-101

[講演・口頭発表等]

1. Akiko Sasaki, Kumiko Morita, Fumi Ohshima, Hiroki Ohshima, Kishiko Takayama, Mie Hokuto, Mitsu Ono, Tomoko Tanuma, Yuko Kanaya, Tomoko Shiomitsu. Effects of Life Association Methods on conversation, emotional function, and social interaction in the healthy aging for the elderly people.. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.06.21

1. 山本菜里, 田中利奈, 木内恵美, 高松泉, 津田紫緒. システム導入による保健所 COVID-19 対応業務の体制構築 ~患者対応における業務管理の視点から~. 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会 2022.12.17 仙台
2. 田中利奈, 山本菜里, 高松泉, 木内恵美, 津田紫緒. システム導入による保健所 COVID-19 対応業務の体制構築 患者対応における質的管理の視点から. 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会 2022.12.17 仙台
3. 國府 幹子, 月野木 ルミ. 壮年期にある重症心身障害者の母親への 将来を見据えた訪問看護師の関わり. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 2022.12.04 広島県広島市
4. 月野木 ルミ, 今村 晴彦. CFIR-ERIC マッチングツールを用いた子育て中の被扶養者女性に対する健診促進戦略. 日本公衆衛生学会総会 2022.10.07 山梨県
5. 小林 こころ, 月野木 ルミ, 津田 紫緒. 看護師が捉えた、思春期 1 型糖尿病患者の自立への移行において患者会が果たす役割. 日本公衆衛生学会総会 2022.10.07
6. 本田順子, 月野木ルミ, 津田紫緒, 佐々木明子. 行政保健師の感情労働への対処行動. 日本地域看護学会第 25 回学術集会 2022.08.27 web 開催、富山県
7. 本田 順子, 月野木 ルミ, 津田 紫緒, 佐々木 明子. 行政保健師の感情労働への対処行動. 2022.08.27 富山
8. 月野木ルミ, 河邊優, 若林佳奈, 今村晴彦. CFIR-ERIC Matching Tool の活用経験：子育て中の被扶養者女性に対する健診受診の促進戦略の実施評価. RADISH 第 8 回学術集会 2022.07.09 web 開催
9. 月野木ルミ, 村上 義孝, 今村 晴彦, 岡村 智教. 都市部子育て世代女性における母親の健康情報源と 健診受診との関連：第 2 報. 第 32 回日本疫学会学術総会 2022.01.26 Web 開催&東京ベイ舞浜ホテル ファーストリゾート

[その他業績]

1. 食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業 分担研究者, 月野木ルミ, 2022 年
2023 年 3 月までの約 2 年半の期間を予定しており、日本高血圧学会が中心となって専門家を集結し、尿中ナトリウム・カリウム測定による減塩・カリウム摂取増加のための保健指導および食環境整備の手法を開発する。さらに開発した手法を、本学会が推進する「高血圧ゼロのまち」参加自治体や企業従業員の大規模集団において実践し、食行動変容への効果を実証する。
2. テレワークの常態化による労働者の筋骨格系への影響や生活習慣病との関連性を踏まえた具体的方策に資する研究 研究協力者, 月野木ルミ, 2022 年
令和 4 年：テレワークによる身体活動の減少や、エルゴノミクスへの配慮が十分でない環境（自宅の机、椅子、長時間同じ姿勢での作業等）が、労働者の筋力や関節等に及ぼす影響やこれに伴う生活習慣病リスクについて実態把握を進め、その改善策について検討を行う。
3. 生涯に渡る循環器疾患の個人リスク及び集団リスクの評価ツールの開発及び臨床研究 研究協力者, 月野木ルミ, 2022 年
わが国の循環器疫学を中心とするコホートの統合研究である EPOCH-JAPAN (Evidence for Cardiovascular Prevention From Observational Cohorts in Japan) により、循環器疾患の生涯にわたるリスクについて、危険因子の変動や予測可能期間の影響を検討するとともに、より精緻な予測可能なツールの開発を目的とした。
4. 健康日本 21(第二次) の総合評価と次期健康づくり運動に向けた研究 研究協力者, 月野木ルミ, 2022 年
5. 第 15 回品川子育てメッセ 2022 協賛出展, 月野木ルミ, 2022 年 10 月
品川区の健診受診啓発活動推進

[社会貢献活動]

1. 日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2014 年 04 月 01 日 - 2026 年 04 月 01 日
2. 品川子育てメッセ 2018-2022 協賛, 月野木ルミ, 2018 年 10 月 30 日 - 現在
3. 日本看護科学学会 英文誌編集委員, 月野木ルミ, 2019 年 07 月 11 日 - 2023 年 06 月 30 日
4. Journal of Occupational Health 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Occupational Health, 2020 年 - 現在
5. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 2020 年 - 現在

6. International Journal of Environmental Research and Public Health reviewer, 月野木ルミ, International Journal of Environmental Research and Public Health, 2020年 - 現在
7. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年04月08日 - 現在
8. お茶の水看護雑誌 編集委員, 月野木ルミ, 2021年 - 現在
9. 日本公衆衛生学会 編集委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2021年01月01日 - 2023年12月31日
10. 日本公衆衛生学会 代議員, 月野木ルミ, 2021年07月01日 - 2023年06月30日
11. 江戸川保健所業務継続のための支援, 2021年08月16日 - 現在
12. 日本看護科学学会 和文誌査読委員, 月野木ルミ, 2021年09月07日 - 2026年09月06日
13. 日本公衆衛生学会 学会連携推進委員, 月野木ルミ, 2021年11月11日 - 2023年10月30日
14. 日本疫学会 疫学研究推進ワーキンググループ委員, 月野木ルミ, 2022年01月 - 2024年01月
15. 健康づくり施策のための Textbook～基礎から実践まで～ 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月 - 2023年01月
16. アルコール 習慣を変える、未来に備える あなたが決める、お酒のたしなみ方 (お酒をたしなむ女性編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月 - 2023年01月
17. アルコール 習慣を変える、未来に備える あなたが決める、お酒のたしなみ方解説書 (お酒をたしなむ女性編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月 - 2023年01月
18. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (30代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月09日 - 2023年01月
19. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書 (30代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月10日 - 2023年01月
20. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (40代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月11日 - 2023年01月
21. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書 (40代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月12日 - 2023年01月
22. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (50代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月13日 - 2023年01月
23. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書 (50代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット , 2022年08月14日 - 2023年01月

地域健康増進看護学

Community Health Promotion Nursing

森田	久美子	(教育教授)
三村	祐美子	(大学院生)
丸山	佳代	(大学院生)
保木	みか	(大学院生)
大竹	文	(大学院生)
角田	紘子	(大学院生)
庄司	花円	(大学院生)
石井	佳代子	(大学院生)
大平	綾美	(大学院生)
山本	晴美	(研究生)

(1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることを最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域・在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

(2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「在宅高齢者の介護予防における「連想法」の国際的方法の確立と効果の検証」「訪問看護師への認知症高齢者ケアに関するICTを用いた教育効果の検討」「睡眠・覚醒相後退障害患者に対するハイブリッド型認知行動療法の開発及び有効性の検証」に関する調査の一部を分担して行っています。

(3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出題される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Kayoko Ishii, Kumiko Morita, Hiroko Sumita. Reliability and validity of the Japanese treatment self-regulation questionnaire for Japanese workers BMC Public Health. 2022.10;
2. Junko Honda, Akiko Sasaki, Shio Tsuda, Machiko Matsuyama, Kumiko Morita. Aspects of emotional labor of public health nurse engaged in interpersonal support Nursing Open. 2022.09;
1. 石井 佳代子, 森田 久美子. 健康行動における自律性の概念分析 日本健康医学会雑誌. 2022.04; 31(1); 71-77
2. 永嶺仁美, 森田久美子, 小林美奈子, 青木利江子, 山本晴美, 大竹文, 丸山佳代, 保木みか, 角田紘子, 石井佳代子, 佐々木明子. 地域住民の居場所の継続年数による運営上の課題および多世代交流実施の比較 日本世代間交流学会誌. 2022.03; 11(2); 11-20

[書籍等出版物]

1. 草野篤子, 溝邊和成, 内田勇人, 村山陽, 作田はるみ編, 森田久美子他 分担執筆. 世代間交流の理論と実践 3 新たな社会創造に向かうソーシャルネットワークとしての世代間交流. 三学出版, 2022.12 (ISBN : 978-4-908877-46-9)
2. 制作・著作：一般社団法人 日本在宅ケア教育研究センター 監修：森田久美子他. 在宅ケアにおける訪問看護 第1巻 在宅ケア開始期の訪問看護. 2022
3. 制作・著作：一般社団法人 日本在宅ケア教育研究センター 監修：森田久美子他. 在宅ケアにおける訪問看護 第2巻 一人暮らし高齢者の訪問看護. 2022
4. 制作・著作：一般社団法人 日本在宅ケア教育研究センター 監修：森田久美子他. 在宅ケアにおける訪問看護 第3巻 医療的ケアを必要とするこどもの訪問看護. 2022

[講演・口頭発表等]

1. Kayoko Ishii, Kumiko Morita. Motivational Perspective Necessary for Managing Health in Workers: Focus on Basic Psychological Needs. The 7th ICCHNR conference 2022.06.22
2. Hitomi Nagamine, Kumiko Morita, Minako Kobayashi, Rieko Aoki, Harumi Yamamoto, Fumi Ohtake, Kayo Maruyama, Mika Hoki, Hiroko Sumita, Kayoko Ishii, Akiko Sasaki . Comparing the reasons for continued operation of the community living room via elapsed years of operation. The 7th ICCHNR conference 2022.06.21 オンライン
3. Akiko Sasaki, Kumiko Morita, Fumi Ohshima, Hiroki Ohshima, Kishiko Takayama, Mie Hokuto, Mitsu Ono, Tomoko Tanuma, Yuko Kanaya, Tomoko Shiomitsu. Effects of Life Association Methods on conversation, emotional function, and social interaction in the healthy aging for the elderly people. 2022.06.21
1. 青木利江子, 小林美奈子, 井上映子, 永嶺仁美, 丸山あかね, 山本晴美, 大竹文, 丸山佳代, 保木みか, 角田紘子, 石井佳代子, 佐々木明子, 森田久美子. 世代間交流の実践の継続性に関する構造分析. 日本世代間交流学会 第13回全国大会 2022.09.03 東京

[社会貢献活動]

1. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010年 - 現在
2. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2010年04月 - 現在
3. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010年04月 - 現在
4. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012年11月 - 現在
5. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年 - 現在
6. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015年01月 - 現在
7. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015年10月 - 現在
8. 日本地域看護学会 査読委員, 2016年 - 現在
9. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021年08月18日 - 現在

先端侵襲緩和ケア看護学

Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教授 田中 真琴
准教授 川上 明希
助教 川本 祐子
助教 福元 留美 (2022年10月から)
大学院生 畑中 佳子
藤田 和寿
染谷 彰 (2022年3月まで)
岩下 絵梨香
大脇 那奈
川島 徹治
蘆田 薫
八鍬 類子
堀田 宗一郎
村上 悠樹
小田 清花
野澤 美奈
清水 理恵

(1) 分野概要

近年のめざましい医療技術の発展に伴い、高度医療によって救命や延命される機会が向上しました。また、難治性の慢性疾患に関しても、新しい治療法の開発が進んでおり先端医療の恩恵を受ける人々も増えています。先端侵襲緩和ケア看護学では、このような状況下にある患者や家族の苦痛等を緩和し、安全安楽にその人らしく生活できるよう支援するために、また病気とうまく付き合っていくよう支援するために、重篤期から回復期、セルフマネジメントに至るまで、さらには緩和ケアを含めた専門的看護のあり方と看護支援方法に関する教育や研究を行っています。

(2) 研究活動

研究については、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいます。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】 慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネジメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいます。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っています。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族のQOL向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいます。

侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っています。

(3) 教育活動

教育については、学部教育では成人看護学を担当しています。2年次では、講義を中心として成人期にある人々の理解と必要な看護の原則について教授しています。3年次前期では、シミュレーションを取り入れた演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合を行い、第一線で活躍する看護師による実践論の講義を通して、多様な看護の可能性について学生の理解や関心の向上を支持しています。そして、3年次後期には、本学附属病院の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとに成人看護学実習を展開しています。また当分野での卒業研究を選択した学生については、学生の知的好奇心を大いに刺激しつつ指導に当たっています。

大学院教育では、当分野の研究指導は、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、学位論文として当該領域の発展に寄与する研究となるよう、ゼミと個別指導を効果的に組み合わせて実施しています。成人領域における看護の専門性の追求と発展を目指した教育、研究指導を行っています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Kawakami Aki, Tanaka Makoto, Sakagami Kayoko, Choong Lee Meng, Kunisaki Reiko, Maeda Shin, Bjarnason Ingvar, Ito Hiroaki, Hayee Bu'Hussain. Daily life difficulties among patients with ulcerative colitis in Japan and the United Kingdom: A comparative study *MEDICINE*. 2022.09; 101(35); e30216
2. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Jovelle Fernandez, Laurie Keefer, Hiroaki Ito. Development and validation of a Japanese version of the Inflammatory Bowel Disease Self-Efficacy Scale and cross-culture study in Japan and the USA *Inflammatory Bowel Diseases*. 2022.09; 1-7
3. Yuko Kawamoto, Yumiko Yatomi, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. Understanding the process of people with hypersensitivity pneumonitis Implementing continuous antigen avoidance and their affecting situations: A grounded theory study. *Journal of Clinical Nursing*. 2022.06; 1-12
4. Owaki N, Tanaka M, Kawakami A. Development of a scale measuring the difficulties faced by nurses who care for patients with delirium in intensive care units. *Australian critical care : official journal of the Confederation of Australian Critical Care Nurses*. 2022.05;
5. Kaoru Ashida, Tetsuharu Kawashima, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Moral distress among critical care nurses: A cross-cultural comparison. *Nurs Ethics*. 2022.05; 9697330221085773
6. Aki Kawakami, Makoto Tanaka, Lee Meng Choong, Reiko Kunisaki, Shin Maeda, Ingvar Bjarnason, Bu' Hussain Hayee. Self-Reported Medication Adherence Among Patients with Ulcerative Colitis in Japan and the United Kingdom: A Secondary Analysis for Cross-Cultural Comparison *Patient Preference and Adherence*. 2022.03; 2022; 671-678
7. Kawakami Aki, Tanaka Makoto, Choong Lee Meng, Kunisaki Reiko, Maeda Shin, Bjarnason Ingvar, Hayee Bu'Hussain. Self-Reported Medication Adherence Among Patients with Ulcerative Colitis in Japan and the United Kingdom: A Secondary Analysis for Cross-Cultural Comparison *PATIENT PREFERENCE AND ADHERENCE*. 2022.03; 16; 671-678
8. Kaoru Ashida, Tetsuharu Kawashima, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Moral distress among critical care nurses: A cross-cultural comparison (in press) *Nursing Ethics*. 2022;
1. 吉野 靖代, 蘆田 薫, 坂木 孝輔, 大友 千夏子, 白藤 尚美. 本邦 ICU における End of Life Care の現状 単施設における診療録調査 死の臨床. 2022.06; 44(1); 158-165
2. 川島 徹治, 川上 明希, 蘆田 薫, 田中 真琴. 集中治療領域での終末期患者とその家族に対するインフォームドコンセントにおける看護実践に関連する要因 *日本看護科学会誌*. 2022.03; 41; 763-771
3. Ho Lily Yuen Wah, Kwong Enid Wai Yung, Song Mi Sook, Kawakami Aki, Boo Sunjoo, Lai Claudia Kam Yuk, Yamamoto-Mitani Noriko. Decision-making preferences on end-of-life care for older people: Exploration and comparison of Japan, the Hong Kong SAR and South Korea in East Asia *JOURNAL OF CLINICAL NURSING*. 2022.01;

[講演・口頭発表等]

1. 染谷彰, 田中真琴. 患者が半側空間無視に気付いていくプロセス—エスノグラフィーの手法を用いて—. 第42回日本看護科学学会学術集会 2022.12.04 広島
2. Kaoru Ashida, Tetsuharu Kawashima, A. C. Molewijk, Janine C de Snoo Trimp, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Moral Distress Reduction using Moral Case Deliberation :A mixed methods feasibility study on Japanese nurses. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.10.18 Taiwan
3. Soichiro Hotta, Kaoru Ashida, Makoto Tanaka. Night-Time Detection and Response in Relation to Deteriorating Inpatients: A Scoping Review. The 7th International Nursing Research Conference 2022.10 Taipei, Taiwan (virtual)
4. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Jovelle Fernandez, Hiroaki Ito.. Difficulty of life among IBD patients in clinical remission.. The 10th Annual Meeting of Asian Organization for CROHN' S & COLITIS 2022.06.16
5. Aki Kawakami, Makoto Tanaka, Lee Meng Choong, Reiko Kunisaki, Shin Maeda, Ingvar Bjarnason, Bu' Hussain Hayee. Self-reported medication adherence among patients with ulcerative colitis in Japan and the United Kingdom: a secondary analysis for cross-cultural comparison. The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn' s & Colitis 2022.06.16 Virtual congress
6. Y. Yumoto, C. Okawara, M. Sasaki, Y. Kawamoto and Y. Ogata. Content Analysis of Burdensome Symptoms and States of People with Dementia at End Of Life in Japan. 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics IAGG 2022 2022.06.12 Web 開催
7. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Jovelle Fernandez, Laurie Keefer, Hiroaki Ito.. Development and validation of a 13-item short version of the IBD self-efficacy scale.. The 17th Europe Crohn' s and Colitis Organization 2022.02.17
1. 加藤 美詞, 佐々木 美樹, 前田 優貴乃, 前田 留美, 藤波 景子, 緒方 泰子. 病院に勤務する看護職に対する職業性腰痛への介入と有効性に関する文献レビュー. 第26回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
2. 田中真琴, 川上明希, 阪上佳誉子, 寺井朋子 Jovelle Fernandez, 伊藤裕章.. 臨床的寛解期にあるIBD患者の日常生活における困難感の実態. 第108回日本消化器病学会総会 2022.04.22
3. Bette Mariani, 前田留美. シミュレーションリサーチループリックの日本での活用. 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 2022.02.19 オンライン開催

[Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD教材 日本語版監修(共著) 第1巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第2巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010年04月 - 現在

[受賞]

1. 笹川保健財団研究助成, 公益財団法人笹川保健財団, 2022年06月

[その他業績]

1. (前田) 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 企画実行委員, 2022年02月
第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会において企画実行委員を務め、主に国際委員会企画講演「シミュレーション・リサーチ・ループリック(SRR)の日本での活用」の企画、翻訳動画作成、SRRの概要紹介を行った。
2. (前田) 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 座長, 2022年02月
第3回日本看護シミュレーションラーニング学会において、一般演題「第7群 学びの統合」の座長をつとめた。

[社会貢献活動]

1. お茶の水会看護同窓会, 2002年04月 - 現在
2. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010年04月01日 - 現在
3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012年04月01日 - 現在
4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会, 2013年08月21日 - 現在
5. 四大学平成卒業生の会連合会, 2014年06月 - 現在
6. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員 (前田), 2015年04月01日 - 現在
7. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年10月01日 - 現在
8. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員 (前田), 2016年08月01日 - 現在
9. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員 (前田), 2017年01月01日 - 現在
10. 社) 日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員 (前田), 2018年11月01日 - 現在
11. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021年08月18日 - 現在
12. 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会企画委員, 社) 日本看護シミュレーションラーニング学会, オンライン開催, 2022年01月01日 - 2022年02月28日

精神保健看護学

Mental Health and Psychiatric Nursing

准 教 授	高野歩 松長麻美 (2022年5月～)
助 教	栗林一人 (~2022年8月)
技術補佐員	小竹理紗 (2022年9月～)
事務補佐員	江波戸夕香
大学院生 (博士後期) 5年一貫博士課程	松浦佳代 高濱圭子 富川明子 栗原淳子 平岩千明 及川江利奈 奈良麻結 知花文香 (2022年4月～) 平谷七美 (2022年4月～)

(1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的な方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

(2) 研究活動

1. 精神疾患患者とその家族への支援
2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
5. 司法精神医学・看護学に関する研究

(3) 教育活動

当分野では、精神保健と精神看護、双方の視点からあらゆる人の精神的健康の維持・向上を支援するための理念および実践方法について教育を行っている。また、新たな時代のニーズに応える精神看護学の研究の発展に貢献

できる研究者の人材育成に力を入れている。

(4) 教育方針

1) 学部教育

1. 精神看護学では、精神看護実践の前提となる、精神疾患の病態、精神科診断学、治療学等の精神医学の基礎知識を習得する。司法精神医療等、精神医療の関連領域における治療の理論や方法について理解する。精神医療・精神保健福祉における法律、制度、施策に関する知識を習得し、わが国における課題について考察する。これらの内容を看護学の視点から再考し、看護職の役割や看護援助への活用について考察する。
2. 地域精神看護学では、様々な精神的健康問題に関する社会状況と支援方法について理解する。地域で生活する精神障害を有する人の健康や生活の質の向上を支援するために必要な社会資源に関する基礎知識を習得する。精神保健医療福祉システムの中で看護職が担う役割について考察する。
3. 精神看護学演習では、演習を通じて精神看護の実践に必要な援助の理論と方法を習得する。精神障害を有する人における精神疾患と生活障害との関連について、セルフケアモデルやストレングスモデルによりアセスメントし、必要な看護援助を考案する。援助的な対人関係を構築する技術を身につけ、精神障害を有する人の回復、成長、自立を支援するための知識と技術を身につける。グループワークを通して、他者と協働して学習する能力を養う。
4. 精神看護学実習は、精神障害者に対する理解を深め、自己理解および対人関係を構築、発展させるプロセスを通して、精神看護実践の基本的能力を修得する。地域施設において、地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法について学ぶ。また、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて看護師が担うべき役割について学修する。

2) 大学院教育

1. コンサルテーション論では、看護師の問題解決に必要なコンサルテーションの概念および実践モデルを理解し、高度な看護実践におけるコンサルテーション活動を展開するための基礎能力を養う。
2. 精神保健看護学特論Ⅰでは、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組み、ならびに様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について学修する。精神医学的診断法や心理測定法、精神療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法についての理解を深め、看護学の視点に基づく評価と援助を実践する能力を養う。
3. 精神保健看護学演習Ⅰでは、精神保健看護学に関する研究のクリティークを通し、精神保健看護学分野における研究の動向や課題について理解を深める。
4. 精神保健看護学特論Ⅱでは、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得する。精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究ができる能力を修得する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kayo Matsuura, David Timmons, Ayumi Takano. A Survey for Examining the Validity and Reliability of the Japanese Version of the Forensic Psychiatric Nursing Competence Scale International Journal of Forensic Mental Health. 2022.11;
2. Masaru Tatenno, Takanobu Matsuzaki, Ayumi Takano, Susumu Higuchi. Increasing important roles of child and adolescent psychiatrists in the treatment of gaming disorder: Current status in Japan Frontiers in Psychiatry. 2022.10; 1-10
3. Naonori Yasuma, Kotaro Imamura, Kazuhiro Watanabe, Mako Iida, Ayumi Takano. Adolescent cannabis use and the later onset of bipolar disorder: protocol for a systematic review and meta - analysis of prospective cohort studies Neuropsychopharmacology Reports. 2022.10;

4. Kazuto Kuribayashi, Ayumi Takano, Akiko Inagaki, Kotaro Imamura, Norito Kawakami. Effect of stress management based on cognitive-behavioural therapy on nurses as a universal prevention in the workplace: a systematic review and meta-analysis protocol. *BMJ Open*. 2022.09; 12(9); e062516
5. Toshinori Kitamura*, Asami Matsunaga*, Ayako Hada*, Yukiko Ohashi, Satoru Takeda. Development of a Scale for COVID-19 Stigma and its Psychometric Properties: A Study among Pregnant Japanese Women *Behavioral Sciences*. 2022.07; 12(8);
6. Ayumi Takano, Yuki Miyamoto, Tomohiro Shinozaki, Toshihiko Matsumoto, Norito Kawakami. Effects of a web-based relapse prevention program on abstinence: Secondary subgroup analysis of a pilot randomized controlled trial. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2022.06;
7. Satomi Mizuno, Sachiko Ono, Ayumi Takano, Hideo Yasunaga, Hirotarō Iwase. Dental characteristics associated with methamphetamine use: analysis using forensic autopsy data *BMC Oral Health* . 2022.04; 22(1); 1-10
8. Ayumi Takano, Norito Kawakami. Author's Reply to COMMENTARY ON "Adolescent Work Values and Drug Use in Adulthood: A Longitudinal Prospective Cohort Study". *Subst Use Misuse*. 2022.04; 57(7); 1154-1155
9. Masaru Tateno, Ayumi Takano, Takanobu Matsuzaki, Susumu Higuchi . Current status and future perspectives of clinical practice for gaming disorder among adolescents in Japan: A preliminary survey in Sapporo *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports*. 2022.03; 1(1); 1-3
10. Hiroko Kotajima-Murakami, Ayumi Takano, Yasukazu Ogai, Shotaro Tsukamoto, Maki Murakami, Daisuke Funada, Yuko Tanibuchi, Hisateru Tachimori, Kazushi Maruo, Tsuyoshi Sasaki, Toshihiko Matsumoto, Kazutaka Ikeda. Ifenprodil for the treatment of methamphetamine use disorder: An exploratory, randomized, double - blind, placebo - controlled trial *Neuropsychopharmacol Rep*. 2022.01; 39(2); 90-99
1. 宇佐美貴士, 熊倉陽介, 高野歩, 金澤由佳, 松本俊彦. 薬物犯罪による保護観察対象者の1年後転帰に関する検討: 保護観察から地域精神保健的支援への架け橋「Voice Bridges Project」 *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 2022.11; 57(3); 143-157
2. 高野歩, 徳重誠, 大野昂紀, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝. 自記式および親評定版ゲーム障害スクリーニング尺度日本語版の作成と言語的妥当性検証 *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 2022.06; 57(2); 90-108
3. 松浦 佳代, 高野 歩, 森 真喜子, David Timmons. 司法精神看護実践能力測定尺度の日本語翻訳版 (FPNC-J) の開発 *日本看護科学学会誌*. 2022.03; 41; 780-786

[書籍等出版物]

1. パット・デニング(著), ジーニー・リトル(著), 松本 俊彦(監修), 高野 歩(監訳), 古藤 吾郎(監訳), 新田 慎一郎(監訳). *ハームリダクション実践ガイド 薬物とアルコールのある暮らし*. 金剛出版, 2022.08 (ISBN : 9784772419024)

[総説]

1. 松長 麻美, 北村 俊則. 心理援助の理論やエビデンスを臨床助産ケアに活かそう!(第14回) 心理援助における倫理 *臨床助産ケア*. 2022.09; 14(5); 77-82
2. 高野歩. 日本におけるハームリダクションの展開に向けて *精神医療*. 2022.07; (6); 71-78
3. 松長 麻美. 心理援助の理論やエビデンスを臨床助産ケアに活かそう!(第12回) 周産期の心理援助にかかわる法律と制度 *臨床助産ケア*. 2022.05; 14(3); 60-65
4. 日本精神保健看護学会社会貢献委員会, 香月富士日, 桐山啓一郎, 高野歩, 武用百子, 澤田華世, 山田浩雅, 片岡三佳. COVID-19 対応や災害支援時における PFA に基づくセルフケアと相互支援 *保健師ジャーナル*. 2022.04; 78(2); 142-148

[講演・口頭発表等]

1. TOKUSHIGE Makoto, ONO Koki, ASAOKA Hiroki, MIYAMOTO Yuki, TATENNO Masaru, TAKANO Ayumi. Verification of the linguistic validity and feasibility of the Japanese version of the Gaming Disorders Screening Scale. The 7th International Conference on Behavioral Addictions (ICBA) 2022.06.22 Nottingham
2. Ayumi Takano, Takashi Usami, Yuka Kanazawa, Yousuke Kumakura, Toshihiko Matsumoto. Risk and preventive factors associated with illicit drug use among male methamphetamine users on probation in Japanese criminal justice system: a one-year prospective cohort study. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 84th Annual Scientific Meeting 2022.06.12 Minneapolis
3. Yuki Miyamoto, Nozomi Eguchi, Emi Matsumoto, Ayumi Takano, Kaori Okamoto, Azusa Saito, Tomoyuki Kaneta, Yuko Otake. The words she would say to herself back then: Healing from sexual violence. The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2022.04.21 Online
1. 高野歩. 日本の医療現場でも実践できるハームリダクションに基づく治療的支援. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
2. 大野昂紀, 徳重誠, 平谷七美, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝, 高野歩. 複数のゲーム障害スクリーニング尺度を用いたゲーム障害陽性率の検討. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
3. 徳重誠, 大野昂紀, 平谷七美, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝, 高野歩. 自記式と親評定版ゲーム障害スクリーニング尺度の関連. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
4. 安間尚徳, 高野歩. 思春期における大麻使用とその後の双極性感情障害の発症: 系統的レビューとメタ分析プロトコル. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
5. 平谷七美, 徳重誠, 大野昂紀, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝, 高野歩. ゲームの使用問題を有する患者における精神的健康及び生活状況の検討. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
6. 平谷七美, 徳重誠, 大野昂紀, 浅岡紘季, 宮本有紀, 館農勝, 高野歩. ゲームの使用問題を有する患者における精神的健康及び生活状況の検討. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.09 仙台
7. 高野歩. 予防・治療におけるデジタルと人の役割. 第57回日本アルコール・アディクション医学会総会 2022.09.08 仙台
8. 金澤由佳, 熊倉陽介, 宇佐美貴士, 堤史織, 高野歩, 松本俊彦. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行に伴う VBP および薬物依存症地域支援への影響に関するアンケート調査 vol.2. 第18回日本司法精神医学会 2022.07.09 オンライン
9. 松長麻美. 周産期メンタルヘルス支援におけるスティグマを考える. 2022.06.17 福岡
10. 山口創生, 小川亮, 安藤俊太郎, 松長麻美, 小塩靖崇, 近藤伸介, 市橋香代, 藤井千代, 笠井清登. 医学生に対するアンチ・スティグマ介入の効果: 日本サイトの結果から. 第118回日本精神神経学会学術総会 2022.06.16 福岡
11. 小塩靖崇, 松長麻美, 山口創生, 畠山健介, 川村慎, 吉谷吾郎, 堀口雅則, 中島俊, 蟹江絢子, 堀越勝, 藤井千代. 日本のラグビー選手におけるメンタルヘルス対処行動の特徴. 第118回日本精神神経学会学術総会 2022.06.16 福岡
12. 西大輔, 羽澄恵, 白田謙太郎, 岡崎絵美, 小倉加奈子, 片岡真由美, 小塩靖崇, 松長麻美, 梅本育恵, 久我弘典, 藤井千代. 心のサポーター養成事業 Nippon COCORO Action. 第118回日本精神神経学会学術総会 2022.06.16 福岡
13. 松長麻美. 周産期の家族機能とメンタルヘルス支援～精神保健専門職の立場から～. 第78回日本助産師学会 2022.05.31 オンライン

[受賞]

1. CPDD 奨励賞, 日本アルコール・アディクション医学会, 2022年09月

[社会貢献活動]

1. アルコール関連問題予防研究会 企画委員, 2011年04月 - 現在
2. こころのバリアフリー研究会 評議員, 2013年 - 現在
3. 日本精神障害者リハビリテーション学会 研修委員, 2016年 - 現在
4. JICA フィリピン「科学的根拠に基づく薬物依存症治療プログラム導入プロジェクト」国内支援委員会研究部会メンバー, 2017年05月 - 現在
5. 日本精神保健看護学会 査読委員, 2017年07月 - 現在
6. International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) Membership Committee, 2018年01月 - 2022年12月
7. 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 客員研究員, 2018年04月 - 現在
8. A/CRA/FT ASIA 普及アドバイザー, 2019年01月 - 現在
9. 日本精神保健看護学会 社会貢献委員, 2019年09月 - 現在
10. 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員, 2019年10月 - 現在
11. 日本社会精神医学会 多職種協働特別委員, 2020年 - 現在
12. 日本アルコール・アディクション医学会 広報委員会, 2020年10月 - 2022年09月
13. 日本アルコール・アディクション医学会 ハームリダクション特別委員会, 2020年10月 - 現在
14. 日本アルコール・アディクション医学会 学術評議員, 2020年10月 - 現在
15. 日本アルコール・アディクション医学会 理事, 2020年10月 - 現在
16. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021年08月18日 - 現在
17. 第57回日本アルコール・アディクション医学会 プログラム委員, 2021年10月 - 2022年09月
18. 日本アルコール・アディクション医学会 将来構想委員会, 2021年11月 - 現在
19. 日本社会精神医学会 査読委員, 2022年 - 現在
20. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2022年 - 現在
21. 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 客員研究員, 2022年05月 - 現在
22. 北村メンタルヘルス研究所 客員研究員, 2022年05月 - 現在
23. 北村メンタルヘルス学術振興財団 周産期メンタルヘルスセミナー, 北村メンタルヘルス学術振興財団, オンライン, 2022年05月01日 - 2022年06月19日
24. アルコール・薬物依存症の方に対する行動変容をサポートする AI 開発, 日経新聞, 日本経済新聞, 2022年05月13日 - 2022年05月20日
25. 一般財団法人北村メンタルヘルス学術振興財団 理事, 2022年06月 - 現在
26. 第58回日本アルコール・アディクション医学会 プログラム委員, 2022年09月 - 2022年10月
27. 第26回東アジア看護学研究者フォーラム (EAFONS) 査読委員, 2022年09月 - 2023年03月
28. 日本アルコール・アディクション医学会 柳田知司賞選考委員会, 2022年09月 - 現在
29. 日本アルコール・アディクション医学会 編集委員会 委員長, 2022年09月 - 現在
30. 日本アルコール・アディクション医学会 優秀論文賞選定委員会 委員長, 2022年09月 - 現在
31. 日本アルコール・アディクション医学会 国際委員会, 2022年09月 - 現在

小児・家族発達看護学

Child and Family Nursing

准教授	岡光	基子
助教	矢郷	哲志
特任助教	厚美	彰子
大学院生	鈴木	香代子
大学院生	勝本	祥子
大学院生	朝見	優子
大学院生	佐藤	文敬
大学院生	鈴木	嘉代子
大学院生	松崎	愛
研究生	岡林	優喜子

(1) 分野概要

当分野では、小児看護学に関する教育と研究を行っている。

学部教育では、Life-span Development の視点から、小児とその家族、そしてそれらを取り巻く環境を理解し、自ら考え、より良い看護のあり方を考案することができる実践家の育成に努めている。

大学院教育では、乳幼児精神保健に関する専門的知識とスキルを持ち、小児看護の発展に寄与しうる研究者や実践家の育成に取り組んでいる。

研究においては、乳幼児精神保健を基盤とし、親子の健やかな発達と Well-being を促すことを目指し、乳幼児とその家族に対する育児支援システムの構築を主要なテーマとして取り組み、研究成果を報告している。

また、Family Partnership Model に基づく育児支援講習会を開催し、乳幼児とその家族に関わる専門職教育にも力を入れている。

(2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害など、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 4) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 5) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 6) 幼児の社会—情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 7) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 8) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 9) 子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発
- 10) 乳幼児と高齢者との世代間交流が乳幼児の発達に及ぼす影響などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、5) においては、東京医科歯科大学病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、総合実習Ⅱ、卒業論文Ⅱの他、癒しのケア論、インディペンデントスタディ、看護の統合と実践を担当している。卒業論文Ⅱにおいては、4名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。また、歯学部口腔保健衛生学専攻の保健医療サービスの講義を担当した。

2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論Ⅰ・Ⅱ、小児家族発達看護学演習Ⅰ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、インディペンデントスタディ A・B および共通科目である家族看護学特論の他、先端侵襲緩和ケア看護学演習Ⅰと急性・重症患者フィジカルアセスメントの講義を担当した。

(4) 臨床活動および学外活動

1 型糖尿病の患者・家族会 (東京わかまつ会) の運営に携わっている。

(5) 研究業績

[総説]

1. 津田紫緒, 岡本美和子, 矢郷哲志, 岡光基子. 「コロナ禍にあって見えてきたこと」 コロナ禍における地域の子育て支援策 乳幼児医学・心理学研究. 2022.03; 30(2); 93-101

[講演・口頭発表等]

1. 朝見優子, 矢郷哲志, 岡光基子. 小児在宅療養における親とのパートナーシップに関する訪問看護師の実践: 質的研究の文献検討. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 2022.12.03 広島
2. 岡林優喜子, 大森貴秀, 矢郷哲志, 村松三智, 岡光基子. 育児支援専門外来における産後 1 年間の乳幼児精神保健の実践と評価. 第 31 回日本乳幼児医学・心理学会 2022.02.19
3. 河村秋, 小淵隆司, 矢郷哲志, 大森貴秀, 廣瀬たい子, 岡光基子. 日本語版 ITSEA の臨床的妥当性の検討. 第 31 回日本乳幼児医学・心理学会 2022.02.19

[その他業績]

1. 岡光基子: シンポジウム Communicative Musicality (絆の音楽性) と問主観性 企画趣旨. 乳幼児医学・心理学研究, 2022, 31(1):21., 2022 年 09 月

[社会貢献活動]

1. 乳幼児保健学会 理事 (岡光基子), 2012 年 04 月 01 日 - 現在
2. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査 (岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
3. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 日本体育大学 非常勤講師 (岡光基子), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
5. お茶の水看護学研究会 編集委員 (岡光基子), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
6. 乳幼児保健学会 事務局 (矢郷哲志), 乳幼児保健学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
7. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」 講師 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 - 現在
8. JNCAST 講習会 講師 (岡光基子), 2017 年 08 月 26 日 - 現在
9. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師 (岡光基子), 2017 年 09 月 28 日 - 現在

10. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」DDユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師(矢郷哲志), 2017年09月28日 - 現在
11. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師(矢郷哲志), 2017年09月28日 - 現在
12. 日本体育大学 特別講師(矢郷哲志), 2018年04月01日 - 現在
13. 乳幼児保健学会 評議員(矢郷哲志), 2019年04月01日 - 現在
14. お茶の水看護学雑誌 査読委員(矢郷哲志), お茶の水看護学研究会, 2019年04月01日 - 現在
15. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース)作成協力(矢郷哲志), 日本小児看護学会, 2019年05月 - 現在
16. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース)講師(岡光基子), 日本小児看護学会, 2019年05月22日 - 現在
17. 日本乳幼児医学・心理学会 理事、副編集委員長、編集委員(岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2020年04月01日 - 現在
18. 静岡県立大学大学院看護学研究科 非常勤講師(岡光基子), 2020年04月01日 - 現在
19. 文京保健所業務継続のための応援派遣(岡光基子), 2020年04月08日 - 現在
20. 文京保健所業務継続のための応援派遣(矢郷哲志), 2020年04月08日 - 現在
21. 第31回日本乳幼児医学・心理学会 事務局責任者(矢郷哲志), 2021年04月01日 - 2022年02月19日
22. 第31回日本乳幼児医学・心理学会 大会長(岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 東京医科歯科大学, 2021年04月01日 - 2022年02月19日
23. 「乳幼児医学・心理学研究」2021年度特集号企画(岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2021年04月01日 - 2022年03月31日
24. 第31回日本乳幼児医学・心理学会(岡光基子), 記念講演の講師として Jonathan Delafield-Butt氏(University of Strathclyde)を招聘, 2022年02月19日
25. 「乳幼児医学・心理学研究」2022年度大会号企画(岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2022年04月01日 - 2023年03月31日
26. 一般社団法人日本家族看護学会 社会活動・政策委員会 委員(矢郷哲志), 一般社団法人日本家族看護学会, 2022年06月11日 - 2024年
27. King's College London 大学院生 研究指導(岡光基子), 2022年08月22日 - 2022年09月30日
28. King's College London 大学院生 研究指導(矢郷哲志), 2022年08月22日 - 2022年09月30日
29. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 査読委員(矢郷哲志), 2022年09月01日 - 2023年03月31日
30. 一般社団法人日本家族看護学会 学会誌 査読委員(矢郷哲志), 一般社団法人日本家族看護学会, 2022年10月01日 - 2024年08月31日

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

教授 大久保 功子
講師 三隅 順子
助教 廣山 奈津子

大学院生

博士5年一貫課程

佐野 深雪
鈴木 由美子
佐藤 千鶴
石田 徹 (休学中)
今村 美聡
戸田 あゆみ
片岡 綾華
平岩 千明 (特別参加)

(1) 分野概要

当該分野では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関する研究者に必要とされるであろう能力を高めるために、EBM や NBM の視点をおりまぜながら、研究のトレンドを探り、研究方法の歴史的背景や哲学的立場を踏まえ、深く掘り下げた研究クリティークを行っています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しています。

(2) 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティブ研究法など、研究課題に則して適切に研究方法を選択して取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。

代替医療、精神分析学、対人関係論、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論についても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅・廣山は性暴力被害者支援・DV 被害者支援に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

(3) 教育活動

2022年度、大学院には博士5年一貫課程の7名の学生が在籍しています。2022年は1名が博士の学位を取得しました。精神保健看護学分野の学生さんも、時々ゼミに参加されています。ゼミはZoom形式で実施しています。

教育活動として、自分の研究課題に取り組むだけではなく、様々な研究のプロセスを学びあい、お互いに切磋琢磨する環境づくりをこころがけています。現在は Mix Methods, GT, Narrative Method, Ethnomethodology と、実に多様な研究法で学生は研究に取り組んでおります。副指導担当となっている他領域の学生にも、当該分野のゼミに参加して発表し、議論していただいています。

(4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

(5) 臨床活動および学外活動

大久保は主に質的研究に取り組み、三隅・廣山は性暴力被害者支援を行っています。

(6) 研究業績

[原著]

1. Yumiko Suzuki, Noriko Okubo. Lived experiences of women with memories of childbirth British Journal of Midwifery. 2022.03; 30(3); 152-189
1. Yumoto Yoshie, Hiroshima Natsuko, Sasaki Miki, Fujinami Keiko, Otsuka Saki, Togari Taisuke, Edvardsson David, Ogata Yasuko. Reliability and validity of the Japanese version of the Person-Centered Care Assessment Tool GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL. 2022.02; 22(4); 344-349

[講演・口頭発表等]

1. 佐藤千鶴, 大久保功子, 三隅順子. NICUにおける熟練看護師の日常生活援助に対する早産児の反応. 第42回日本看護科学学会学術集会 2022.12.03 広島

[Works]

1. 【視聴覚教材】性暴力被害者ワンストップ支援センターでの対応について, 教材, 性暴力被害者ワンストップ支援センターの新規支援者研修, 2017年05月 - 現在
2. 【視聴覚教材】性暴力被害者対応①全身観察と証拠採取の方法, 教材, 女性の安全と健康のための支援教育センター SANE 研修, 2021年02月 - 現在

[その他業績]

1. 精神障害を抱える妊産婦のケアで、助産師が直面する困難と対処
大久保功子 (研究分担者) : 科学研究費補助金 (基盤研究 C)

[社会貢献活動]

1. SANE 研修 講義&ワーク: 性暴力被害女性への看護の実際, 女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修, 東京有明医療大学, 2004年04月01日 - 現在
2. 乳幼児保健学会理事, 2008年05月01日 - 現在
3. 御茶ノ水看護学研究会理事, 2010年10月01日 - 現在
4. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011年04月01日 - 現在

5. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012 年 12 月 12 日 - 現在
6. SARC 東京 支援員研修講座, SARC 東京, 江戸川グリーンパレス, 2018 年 05 月 19 日 - 現在
7. ワンストップ支援センター和歌山 mine ボランティア養成研修, NPO 法人 レジリエンス, 和歌山性暴力被害者支援研修 2018, 和歌山県 和歌山ビッグ愛: 〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2 , 2018 年 08 月 18 日 - 現在
8. 日本看護科学学会代議員, 2019 年 06 月 30 日 - 現在
9. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 - 現在
10. 文京保健所業務継続のための応援派遣 (廣山) , 2020 年 04 月 08 日 - 現在
11. 大学機関別認証評価委員会専門委員, 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構, 2021 年 05 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
12. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子) , 2021 年 08 月 18 日 - 現在

在宅・緩和ケア看護学分野

Department of Home Health and Palliative Care Nursing

(1) 分野概要

当分野は、これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

このために、分野の教員や大学院生を含む全構成員が力を合わせて、全世代の人々が最期まで安心・安全に過ごせる「地域包括ケアシステム」や「在宅・緩和ケアシステム」の構築に向けて、看護学研究者が果たせる役割の大きさは甚大であると考えています。

(2) 研究活動

分野名である「在宅・緩和ケア看護学」が表すように、当分野では「地域包括ケア」と「在宅看護」をキーワードとした幅広いテーマについて多彩な研究を精力的に進めています。

まず一つ目は、ケアの受け手に直接的に役立つテーマである、入退院支援、エンドオブライフケア、在宅緩和ケア、施設看取り、認知症ケア、レスパイトケア、治療後の在宅療養者のフレイル予防などの「個別ケアの発展」に貢献する研究。

二つ目は、ケア提供者自身にとって有用であり、ひいてはケアの受け手に間接的に役立つテーマとなる、医療介護連携、産官学民連携、在宅ケア管理、離職防止、スタッフ教育などの「ケア提供者、組織、地域のシステムの発展」につながる研究。

三つ目は、人口減少社会を見据えて、我々ケア提供者の人材の最大活用と限られた資源におけるケアの生産性向上を目指し、パーソナルヘルスレコードの活用やデータヘルスの推進が進むなか、医療介護レセプト情報、介護施設等で集積されているケア記録、在宅ケア領域で支払い請求上集積されている在宅ケア記録等の解析による看護の見える化や効果のエビデンス化に寄与するビッグデータを扱う研究。

四つ目は、科学技術・技術革新がヘルスケア業界に急速に導入される時代的背景のなか、看護の視点で行う、見守り機器や介護ロボットの導入・応用に繋がる研究、センシング機器等を活用した連続観察による効果的なケア追及を行うための看工連携研究やトランスレーショナルリサーチ。

以上のように、当研究室では、超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、社会的ニーズに看護が応えることを目指して、幅広い研究テーマを展開・追及していきます。

(3) 教育活動

学部教育

2年生の在宅看護学 I では、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について学びます。

3年生の在宅看護学 II、在宅看護学演習、在宅看護学実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びます。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学びます。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めていきます。

4年生の緩和ケア看護学Ⅰ、緩和ケア看護学Ⅱでは、エンドオブライフ期にある患者とその家族のもつ全人的な苦痛とその緩和、看護支援、多職種チームアプローチ等について学びます。総合実習および卒業研究では、4年間で学習した知識と技術を統合し、複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対し、主体的に看護実践できる力をつけていきます。また、看護の統合と実践実習で学習した多職種との連携、医療安全、管理的視点を踏まえ、在宅医療介護チームの中での看護師の役割を実践の中で学んでいきます。卒業研究では、実際の在宅療養者や地域住民、医療介護従事者からの調査データを用いて、これまで学習した知識や技術を俯瞰的に捉え、在宅療養者や地域住民、在宅医療介護従事者に役立つエビデンス構築を、体験を通して学びます。さらに看護研究の視点からも看護の理解を深め、将来、看護研究のリーダーを担う基礎力を身につけていきます。

大学院教育

在宅・緩和ケア看護学特論Ⅰでは、地域包括ケアシステムの構築の重要性と実際の理解を深め、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の役割について考察を進めていきます。

在宅ケア看護学演習Ⅰでは、文献レビューを通して、超高齢人口減少社会における在宅看護・地域包括ケアシステムの在り方、及び在宅療養における科学技術・ビッグデータの活用に関する研究動向を捉えることを目的に行っています。

在宅・緩和ケア看護学特論Ⅱでは、在宅・緩和ケア看護学に関連する社会情勢の変化、諸制度および地域社会における看護提供の仕組み等を国内外の研究論文および実践の知見当により探求するとともに、在宅ケア看護の専門的看護実践の研究を計画し、学位論文作成につながる研究に取り組み、自立して研究できる能力を習得していきます。

(4) 教育方針

これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

(5) 臨床活動および学外活動

1. 介護及び医療レセプト分析による疾患並びに状態別の最適訪問看護提供パッケージの提案と自治体担当者向けの訪問看護実態可視化ツールの開発
(厚生労働省：2020年04月 - 2022年03月)
2. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発（文部科学省/日本学術振興会：2018年 - 2020年）
3. 工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデル開発（文部科学省/日本学術振興会）
4. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発（文部科学省/日本学術振興会）
5. 訪問看護と介護の連携促進のための慢性疾患高齢者向け早期生活マネジメント指針の開発（文部科学省/日本学術振興会）
6. 工学技術とケア情報を統合した在宅高齢者と家族と医療介護職向け看取り支援IoT開発（文部科学省/日本学術振興会）
7. 大阪府のレセプト特定検診一体型ビッグデータに基づく効率的な特定保健指導運用の提案（文部科学省/日本学術振興会）

(6) 臨床上の特色

複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対する統合的な看護実践が本分野の臨床上の特色である。また、多職種との連携、社会制度を理解した上での調整、医療安全等、管理的視点を在宅医療介護チームの中で発揮することも看護師の役割であることも特色である。超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、在宅看護臨床として、臨床的・学術的に社会的ニーズに応えることも求められる。

(7) 研究業績

[原著]

1. Nakai A, Minematsu T, Nitta S, Hsu W, Tobe H, Sanada H. Development of a method to identify persistent and blanchable redness by skin blotting in mice *International Wound Journal*. 2022.11;
2. Kako J, Kobayashi M, Kanno Y, Kajiwara K, Nakano K, Morikawa M, Matsuda Y, Shimizu Y, Hori M, Niino M, Suzuki M, Shimazu T. Nursing support for symptoms in patients with cancer and caregiver burdens: a scoping review protocol 2022.09; 12(9); e061866
3. Sari DW, Noguchi-Watanabe M, Sasaki S, Yamamoto-Mitani N.. Dietary Patterns of 479 Indonesian Adults and Their Associations with Sodium and Potassium Intakes Estimated by Two 24-h Urine Collections *Nutrients*. 2022.07;
4. Eltaybani S, Igarashi A, Fukui C, Yasaka T, Suzuki H, Weller C, Sakka M, Noguchi-Watanabe M, Takaoka M, Inagaki A.. Family-oriented interventions in long - term care residential facilities for older people: a scoping review of the characteristics and outcomes. *Nursing Forum*. 2022.06;
5. Masuda A, Sakka M, Kitamura S, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Araki A, Yamamoto-Mitani N.. Collaborative visits by hospital specialist nurses with homecare nurses:A nationwide, cross-sectional, web-based survey *Journal of International Nursing Research*. 2022.05;
6. Takako Ishikawa, Sakiko Fukui, Junko Fujita, Aya Fujikawa, Yuka Iwahara, Kunihiro Takahashi. Factors Related to End-of-Life Care Discussions Among Community-Dwelling People in Japan. *J Pain Symptom Manage*. 2022.04; 63(4); 539-547
7. Nitta S, Maeda T, Koudounas S, Minematsu T, Tobe H, Weller C, Sanada H. Which objective itch-assessment tools are applicable to patients with advanced cognitive impairments? A scoping review. *International journal of older people nursing*. 2022.03; e12458
8. Hirooka K, Okumura Y, Matsumoto S, Fukahori H, Ogawa A. Quality of End-of-Life in Cancer Patients With Dementia: Using A Nationwide Inpatient Database. *Journal of pain and symptom management*. 2022.03; 64(1); 1-7
9. Hsu WJ, Minematsu T, Nakagami G, Koudounas S, Tomida S, Nakai A, Kunimitsu M, Nitta S, Sanada H. Identification of microRNAs responsive to shear loading in rat skin. *International wound journal*. 2022.02; 19(2); 351-361
10. Anezaki S, Sakka M, Noguchi-Watanabe M, Igarashi A, Inagaki A, Tsuno Y, Omori J, Ota A, Yamamoto-Mitani N.. Association between participation in hospital-led community activities and sense of security in continued community living among older adults in rural district of Japan: A cross-sectional study. *Health and Social Care in the Community*.. 2022.02; e347-e356
11. Shorey S, Ang E, Baridwan NS, Bonito SR, Dones LBP, Flores JLA, Freedman-Doan R, Fukahori H, Hirooka K, Koy V, Lee WL, Lin CC, Luk TT, Nantsupawat A, Nguyen ATH, Nurumal MS, Phanpaseuth S, Setiawan A, Shibuki T, Sumaiyah Jamaluddin TS, Tq H, Tun S, Wati NDNK, Xu X, Kunaviktikul W. Salutogenesis and COVID-19 pandemic impacting nursing education across SEANERN affiliated universities: A multi-national study. *Nurse education today*. 2022.01; 110; 105277
12. Kobayashi M, Sezai I, Ishikawa T, Masujima M.. Psychological and educational support for cancer patients who return to work: A scoping review. *WORK*. 2022.01; 73(1); 291-300
13. Hiroe Seto, Asuka Oyama, Shuji Kitora, Hiroshi Toki, Ryohei Yamamoto, Jun'ichi Kotoku, Akihiro Haga, Maki Shinzawa, Miyae Yamakawa, Sakiko Fukui, Toshiki Moriyama. Gradient boosting decision tree becomes more reliable than logistic regression in predicting probability for diabetes with big data. *Sci Rep*. 2022.10; 12(1); 15889
14. Junko Fujita, Sakiko Fukui, Aya Fujikawa, Yuka Iwahara, Takako Ishikawa. Factors related to a sense of security with medical and long-term care services among community-dwelling middle-aged and older adults in Japan. *Geriatrics & Gerontology International*. 2022.06;
1. 生田 花澄. 【イノベーション研究を始めよう-テクノロジーが拓く看護ケアの可能性】テクノロジーの活用
の実際 終末期の看護 終末期がん患者における非接触型機器から得られるデータとカルテ・看護記録の活用
看護研究. 2022.08; 55(4); 384-394

2. 森木 友紀, 福井 小紀子, 山川 みやえ, 内海 桃絵, 樋上 容子, 生田 花澄, 竹屋 泰. 就床時夫婦同室の在宅後期高齢者に対するセンシング技術を用いた睡眠実態調査 夜間見守りの必要性の検討 大阪大学看護学雑誌. 2022.03; 28(1); 11-19
3. 山田享介, 野口麻衣子, 沼田華子, 山本則子.. 日本の新卒・新人訪問看護師に対する職場内教育プログラムの文献検討. 日本在宅看護学会誌. 2022; 11(1); 43-52
4. 米村法子, 野口麻衣子, 二見朝子, 山花令子, 山本則子.. 入院を機に難治褥瘡を有する療養者と家族の在宅看取りを実現した看護実践: 事例研究. 家族看護学研究. 2022; 27(2); 128-141
5. 濱谷雅子, 菊地よしこ, 沼田華子, 山田享介, 野口麻衣子, 平原優美, 小沼絵理, 佐藤美穂子, 山本則子.. 機能強化型訪問看護管理療養費を算定していない訪問看護事業所の在宅看取り実施に関連する要因—教育的要因に着目して—. 日本看護科学. 2022;
1. 末永 由理, 佐々木 美奈子, 李 廷秀, 高橋 静子, 是村 利幸, 駒崎 俊剛, 本谷 園子, 菅野 雄介, 中山 純果, 堀込 由紀, 坂本 すが, 宮崎 久義. 中小規模施設における医療安全管理者による医療事故調査制度関連業務の遂行状況と担当すべき職種 施設規模別、加算別での比較 日本医療マネジメント学会雑誌. 2022.06; 23(1); 2-7

[書籍等出版物]

1. 福井小紀子. 総論:「看護学研究者に期待される産学連携研究の実施と実際の取り組みから培った学び」. 医学書院, 2022.08
2. 福井 小紀子. 特集 「イノベーション研究を始めよう—テクノロジーが拓く看護ケアの可能性」 「総論:看護学研究者に期待される産学連携研究の実施と実際の取り組みから培った学び」 . 医学書院, 2022.08
3. 福井 小紀子. 特集 「イノベーション研究を始めよう—テクノロジーが拓く看護ケアの可能性」 「機器を用いて連続的に計測した呼吸数と心拍数から死亡発生を予測する」 . 医学書院, 2022.08
4. 福井小紀子. 明日から役立つ 疾患・場面別アドバンス・ケア・プランニング >> 事例と対話で読み解く意思決定支援. 南江堂, 2022.04 (ISBN : 978-4-524-22834-8)
5. 新田汐里. 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術 (第3版) . 南江堂, 2022.03
6. 福井小紀子. 緩和ケアにおける地域連携の現状と課題. 看護 (日本看護協会出版会) , 2022.02
7. 菅野雄介. 【いまはこうするがん看護～サポーターケア～】 症状緩和ここまでわかってきた! 吃逆のケア がん看護. 27(1). 2022.01
1. 菅野雄介. 日本サイコオンコロジー学会 / 日本がんサポーターケア学会. がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版 第2版. 金原出版, 2022

[講演・口頭発表等]

1. 福井小紀子, 生田花澄, 石川孝子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の体重減少率と死亡との関連 (第3報). 第42回 日本看護科学学術集会 2022.12.04
2. Kasumi Ikuta, Mizuki Katsuhisa, Yuko Takeshita, Yuichiro Saizen, Yuki Moriki, Eriko Koujiya, Miyae Yamakawa, Yasushi Takeya. A STUDY TO IDENTIFY THE FACTOR OF ENHANCING THE ASSOCIATION BETWEEN OLDER ADULTS' AND NURSES' QUALITY OF LIFE IN SUSTAINABLE HOME CARE NURSING. IAGG Online World Congress 2022 2022.06.12
3. Saizen Yuichiro, Kasumi Ikuta, Mizuki Katsuhisa, Yuko Takeshita, Yuki Moriki, Eriko Kujiya, Miyae Yamakawa, Yasushi Takeya. IMPACT OF A NURSE-LED MULTIDISCIPLINARY INTERVENTION USING THE THREE-STEP MODEL ON OLDER HEART FAILURE PATIENTS WITH MULTIMORBIDITY. IAGG Online World Congress 2022 2022.06.12
4. Numata H, Noguchi-Watanabe M, Yamamoto-Mitani N.. The Experience Of End-of-life Care At Home Among Home Care Nurses With Fewer Years Of Experience: Qualitative Interviews.. East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). 2022.04.21 Taipei
1. 生田花澄・石川孝子・福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の食事摂取量減少率と死亡との関連 (第2報). 2022.12.04

2. 福井小紀子・生田花澄・石川孝子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の体重減少率と死亡との関連(第3報). 2022.12.04
3. 相島美彌・石川孝子・福井小紀子. 科学的介護情報システム(LIFE)を用いた口腔フレイルスコアの作成と、緊急受診発生との関連の検討. 2022.12.04
4. 生田花澄・石川孝子・福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の食事摂取量減少率と死亡との関連(第2報). 2022.12.04 広島
5. 福井小紀子・生田花澄・石川孝子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の体重減少率と死亡との関連. 2022.12.04 広島
6. 生田花澄、石川孝子、福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の入居開始3か月間の食事摂取量減少率と死亡との関連(第2報). 第42回日本看護科学学会 2022.12.04
7. 石川孝子、生田花澄、福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の死亡前半年間の食事摂取量の変化の軌跡(第1報). 第42回日本看護科学学会 2022.12.04
8. 齊前裕一郎、勝久美月、生田花澄. Multimorbidityの高齢心不全患者に対する看護師を中心とした多職種介入の有効性. 第42回日本看護科学学会 2022.12.04
9. 相島美彌・石川孝子・福井小紀子. 科学的介護情報システム(LIFE)を用いた口腔フレイルスコアの作成と、緊急受診発生との関連の検討. 2022.12.04 広島
10. 福井小紀子・野口麻衣子・石川孝子・相島美彌・野中さゆり・生田佳澄・浅海くるみ. ケア現場のDX推進を目指した工学技術とケア情報融合の産学連携—TMDU×NJI×ALSOK介護—. 2022.12.03
11. 石川孝子・生田花澄・福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の死亡前半年間の食事摂取量の変化の軌跡(第1報). 2022.12.03
12. 佐川美枝子、野口麻衣子、坂野朋未、新田汐里、福井小紀子.. 居宅系介護保険サービス利用高齢者の給付別サービス利用パターンの探索.. 第42回日本看護科学学会. 2022.12.03 広島
13. 坂野朋未、藤田淳子、野口麻衣子、佐川美枝子、福井小紀子.. 在宅高齢者の死亡前の訪問看護利用と在宅看取りの実態把握.. 第42回日本看護科学学会. 2022.12.03 広島
14. 福井小紀子・野口麻衣子・石川孝子・相島美彌・野中さゆり・生田花澄・浅海くるみ. ケア現場のDX推進を目指した工学技術とケア情報融合の産学連携—TMDU×NJI×ALSOK介護—. 2022.12.03 広島
15. 石川孝子・生田花澄・福井小紀子. ケア記録を活用した施設入居者の死亡前半年の食事摂取量の変化の軌跡(第1報). 2022.12.03 広島
16. 坂野朋未・藤田淳子・野口麻衣子・佐川美枝子・福井小紀子. 在宅高齢者の死亡前の訪問看護利用と在宅看取りの実態把握. 第42回日本看護科学学会 2022.12.03 広島
17. 勝久美月、糀屋絵理子、濱家千絵、竹下悠子、生田花澄、齊前裕一郎、大西真愛、笠松弥咲、森木友紀、山川みやえ、樂木宏実、竹屋泰. 急性期病院における高齢糖尿病患者の薬物有害事象に関する実態調査. 日本糖尿病教育・看護学会誌 2022.08.01
18. 福井小紀子. 訪問看護認定看護師教育課程 安全管理講義. 愛知県看護協会 訪問看護認定看護師教育課程 安全管理 2022.07.15
19. 新田汐里、峰松健夫、戸部浩美、前田智徳、真田弘美. NGF/SEMA3A比の検出によるドライスキン由来のそう痒症における痒み易知覚状態の同定. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 2022.05.20
20. 福井小紀子. 地域包括ケアシステム啓発講演会. 最期まで豊かに生きるための人生会議(アドバンスケアプランニング)の理解と普及 伊勢地区医師会 2022.02.01
1. 白浜伴子、松尾まき、菅野雄介、瀧澤美奈、笠原邑斗、廣島麻揚. 急性期病院に勤務する手術室看護師のワークエンゲイジメント—医師との協働における関係に焦点を当てて—. 日本看護管理学会学術集会 2022.08.19
2. 笠原邑斗、菅野雄介、松尾まき、廣島麻揚、白浜伴子、瀧澤美奈. 男性看護師におけるHope特性の実態と関連要因の検討. 日本看護管理学会学術集会 2022.08.19

3. 瀧澤美奈, 松尾まき, 菅野雄介, 白浜伴子, 笠原邑斗, 廣島麻揚. 院内・部署教育プログラムに則って目標到達ができない看護師に対する支援の実際～教育担当者の育成・支援方法の検討に向けて～. 日本看護管理学会 学術集会 2022.08.19
4. 武内 和代, 松田 香織, 細川 直美, 伊藤 千鶴, 今 方美, 中村 康江, 鶴岡 晃代, 菅野 雄介. がん診療連携拠点病院以外の中小規模病院での終末期がん患者の Advance Care Planning の実態 神奈川県内 300 床未満に勤務する看護師調査. Palliative Care Research 2022.07.01
5. 大社 理奈, 渡邊 眞理, 菅野 雄介, 林 系り子. 膵頭十二指腸切除術を受けた膵臓がん患者への初回外来時におけるセルフケアに関する看護支援. 日本がん看護学会学術集会 36 回 2022.02.01
6. 岩井 典子, 渡邊 眞理, 菅野 雄介, 林 系り子, 今津 陽子. 造血器腫瘍患者の療養場所選択に向けた病棟看護師が行う再発時期からの End-of-life discussions. 日本がん看護学会学術集会 36 回 2022.02.01
7. 井上 智香, 渡邊 眞理, 菅野 雄介, 林 系り子. 高齢がん患者の治療選択における意思決定支援に対する看護師の実践評価 神奈川県内のがん診療連携拠点病院 3 施設調査. 日本がん看護学会学術集会 36 回 2022.02.01

[社会貢献活動]

1. 放送大学 非常勤講師 (福井 小紀子), 2016 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
2. 東京大学 非常勤講師 (福井 小紀子), 2016 年 04 月 01 日 - 2023 年 04 月 27 日
3. 日本緩和医療学会 教育・研修委員会 ELNEC-J WPG (廣岡 佳代), 日本緩和医療学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 日本緩和医療学会 オンラインジャーナル編集委員 (廣岡 佳代), 日本緩和医療学会, 2017 年 04 月 01 日 - 現在
5. 東邦大学 研究方法特講 非常勤講師 (野口麻衣子), 東邦大学, 2019 年 - 現在
6. 慶應義塾大学大学院 非常勤講師 (廣岡 佳代), 慶應義塾大学大学院, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
7. 公益社団法人日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (野口麻衣子), 日本看護科学学会, 2019 年 10 月 - 現在
8. 公益社団法人日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (石川孝子), 2019 年 10 月 01 日 - 現在
9. 日本在宅看護学会 編集委員会 編集委員 (野口麻衣子), 日本在宅看護学会, 2020 年 03 月 - 現在
10. 浜松医科大学 非常勤講師 (福井 小紀子), 2020 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
11. 大阪大学 招へい教授 (福井 小紀子), 2020 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
12. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (野口麻衣子), 2021 年 02 月 01 日 - 現在
13. お茶の水看護学研究会 編集委員会 編集委員 (野口麻衣子), お茶の水看護学研究会, お茶の水看護学雑誌, 2021 年 04 月 - 2022 年 03 月
14. 上智大学 非常勤講師 (石川孝子), 2021 年 04 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
15. お茶の水看護学研究会 編集委員会 編集委員長 (野口麻衣子), お茶の水看護学研究会, お茶の水看護学雑誌, 2022 年 04 月 - 現在

国際看護開発学

International Nursing Development

教授	近藤 暁子
非常勤講師	Ann L. Eckhardt
非常勤講師	Mabel C. Ezeonwu
非常勤講師	Justina Liu Yat Wa
非常勤講師	Iqbal Pramukti
非常勤講師	新津 晃右
非常勤講師	駒形 朋子
非常勤講師	野口 眞貴子
大学院生	Abuliezi Renaguli
大学院生	Hua Jing
大学院生	Quian Huilin
大学院生	Wang Congcong
大学院生	Wen Jieru
大学院生	平井 寛季
大学院生	Piao Meihui
大学院生	Ganchuluun Sambuu
研究生	Ying Zhexi
研究生	Zeng Wanying
研究生	Zhou Yao
研究生	Adimah Sandra Enyonam

(1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主に、大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

(2) 研究活動

主に成人～高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探求している。研究テーマの1つは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行った。その結果日本人の方が有意にコントロール感が低かったが、日本人もコントロール感と健康関連 QOL の相関が認められた。また、大学生・大学院生を対象とし、聖路加国際大学、昭和大学、東京医科大学、米国ワシントン大学と共同し「新型コロナウイルス流行下での健康行動とコントロール感の関係の日米比較」を実施した。さらにインドネシアの大学とも共同研究を実施した。その他看護学生を対象とした異文化や英語教育についての研究も実施している。さらに今後は看護の教員を対象とした異文化教育に関する研究を実施する予定である。

(3) 教育活動

1) 学部教育

本分野では学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習I」を担当している。国際保健看護学では、諸外国の医療と看護の現状を理解し、SDGsをもとに人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養う。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Justina Liu Yat Wa 准教授および米国テキサス大学 Ann Eckhardt 准教授の講義を英語で実施している。「総合実習I」では4年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について学ぶ。学部3年生に対しては「卒業論文I」を担当し、研究手法の基本や論文のクリティークを行っている。1年生に対しては「国際保健看護学I」を実施し、この科目の講義の半分は英語で行っている。

さらに学部24年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。一部は米国ワシントン大学やインドネシアのパジャジャラン大学の学生とオンラインを使用して共通講義とし、ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学んでいる。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。2022年度はインドネシアの大学と共同講義を行う予定である。

また「卒業論文II」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査、病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容、看護学生の英語学習のニーズについての調査を実施した。それらの多くは国際誌において英語論文を発表している。

2) 大学院教育

共通科目では「国際看護研究方法論」を担当している。研究計画書の作成方法や論文のクリティークなどを英語による講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。学生は研究方法を学ぶことのみならず、国際学会でいつでも発表できるように準備している。「国際看護開発学特論」ではシステマティックレビューの方法を学んでいる。国際看護開発学特論で学んだ学生はシステマティックレビュー論文を2021年に International Nursing Review に発表した。

(4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

2023年9月2日に第25回 日本看護医療学会学術集会～新しい時代におけるダイバーシティと多職種連携～を実施予定です。

<https://chiakahs.wixsite.com/my-site>

(6) 研究業績

[原著]

1. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu, Erika Ota. Healthcare graduate students' perceived control and preventive behavior for COVID-19 in Japan and the United States: A cross-sectional study *Frontiers in Public Health*. 2022.10;
2. Mayuka Isoda & Akiko Kondo. Japanese nursing students' motivations and learning needs regarding studying English: A cross-sectional study *SAGE Open*. 2022.04; April-June; 1-13
3. Jing Hua, Akiko Kondo. Factors Related to the Participation or Non-Participation in the University Study Abroad Program among Japanese Nursing Students *Journal of Japanese Society for International Nursing*. 2022.03; 5(2); 1-9

4. Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Renaguli Abuliezi, Ann L. Eckhardt. Relationship between resilience and perceived control after acute coronary syndrome: A prospective study *Journal of Cardiovascular Nursing* . 2022.03; 38(1); E20-E30

[総説]

1. Kosuke Niitsu, Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, & Natalia Dyba. The Impact of Collaborative Online International Learning (COIL) on Intercultural Sensitivity among Nursing Students in the United States and Japan *Nursing Education Perspectives*. 2022.12;
2. Niitsu K, Kondo A, Hua J, Dyba NA. A Case Report of Collaborative Online International Learning in Nursing and Health Studies Between the United States and Japan. *Nursing education perspectives*. 2022.04; 1-2

[講演・口頭発表等]

1. Akiko Kondo, Tomomi Oki. Factors related to resilience of critical care nurses who take care of patients at their end-of-life: a cross-sectional study. The 42nd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2022.12.04 Hiroshima
 2. Jing Hua, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu. Learning experience of Japanese nursing students through Collaborative Online International Learning: A qualitative analysis. The 42nd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2022.12.03 Hiroshima, Japan
 3. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kosuke Niitsu, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota, Mabel C. Ezeonwu. The effects of COVID-19 pandemics on the mental health of nursing students in Japan and the United States. 48th Annual Conference Of The Transcultural Nursing Society 2022.11.03 Louisville
 4. Kosuke Niitsu, Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota. Difficulties Experienced by Nursing Students in Japan and the United States during the COVID-19 Pandemic. 48th Annual Conference Of The Transcultural Nursing Society 2022.11.03 Louisville
 5. Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross, Kosuke Niitsu. Change of Intercultural Sensitivity in International Online Course among Japanese Nursing Students . The 48th Annual Conference of the Transcultural Nursing Society 2022.11.03 Louisville, Kentucky state, the United States
 6. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kosuke Niitsu, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota. Comparison of preventive health behaviors from COVID-19 and related factors between Japanese and U.S. nursing students. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.10.18 Taipei/Online
 7. Jieru Wen, Zhexi Ying, Akiko Kondo. Interventions that Can Impact on the Childbirth Experience Among Women with a Fear of Childbirth: a Systematic Review. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.10.18 Taipei/Online
 8. Cong-Cong Wang. The Trainings for Foreign-Educated Nurses: A Scoping Review. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.10.18 Taipei/Online
 9. Cong-Cong Wang. The Trainings for Foreign-Educated Nurses: A Scoping Review. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022.10.18 Taipei/Online
 10. Hiroki Hirai, Akiko Kondo¹, Janelle Moross, Piao Meihui. Factors of nursing students related to the baseline knowledge and attitude toward LGBTQ+ people. The 6th Annual Meeting of Japanese Society for International Nursing 2022.09.18 Online
1. 大木友美、近藤暁子. クリティカルケア看護師のターミナルケア態度に関連するレジリエンスの二次元構造. 第42回日本看護科学学会学術集会 2022.12.03 広島
 2. 近藤暁子, 野口麻衣. 看護学生の英語学習に対するモチベーションとニーズの経年変化. 日本国際看護学会第6回学術集会 2022.09.18 オンライン
 3. 近藤 暁子, 華 セイ. 日本語が話せない患者とのコミュニケーション演習. 日本国際看護学会第6回学術集会 2022.09.18 オンライン

[受賞]

1. 日本国際看護学会第一回学会賞, 日本国際看護学会, 2022年09月

[社会貢献活動]

1. 第25回日本看護医療学会大会長, 2022年02月01日 - 2022年09月30日
2. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣, 2022年02月12日 - 2022年03月26日
3. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣, 2022年08月06日 - 2022年08月13日

高齢社会看護システム管理学分野

Department of Gerontological Nursing and Healthcare Systems Management

教授 緒方 泰子
准教授 佐々木 美樹
助教 湯本 淑江

特任准教授 佐藤 可奈 (未来創成ナースングリサーチセンター) (2022.10.1 から)
特任講師 鄭 珠 (未来創成ナースングリサーチセンター) (2022.10.1 から)
特任研究員 長井 聡子 (未来創成ナースングリサーチセンター) (2022.10.1 から)

特任講師 前田 留美 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター) (2022.3.31 まで)
特任助教 藤波 景子 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター) (2022.3.31 まで)
特任研究員 丹野 春香 (看護キャリアパスウェイ教育研究センター) (2022.3.31 まで)

大学院生 博士課程 (5年一貫制)

森 陽子
山縣 千尋 (2022.3.31 修了)
長井 聡子
高田 聖果 (2022.3.31 修了)
伊藤 絢乃
笹井 佳奈 (2022.3.31 修了)
佐藤 潤
前田 優貴乃
廣田 千穂
陳 冠華

大学院生 博士課程 (後期)・研究生

石井 典子

研究生

山口 さおり
岩崎 弓子

事務補佐員

小曾根 裕美
鎌田 沙耶
黒河内 沙織 (2022.10.1 から 12.31 まで)

(1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法（個へのアプローチ）に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか（社会システムへのアプローチ）といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応じていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護システム管理学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・

巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

(2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究
4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究
5. 認知症高齢者へのケアに関する研究 など

(3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護システム管理学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Satoko Nagai, Yasuko Ogata, Takeshi Yamamoto, Mark Fedyk, Janice F Bell. A Longitudinal Study of the Impact of Personal and Professional Resources on Nurses' Work Engagement: A Comparison of Early-Career and Mid-Later-Career Nurses. *Healthcare (Basel)*. 2022.12; 11(1);
2. Miki Sasaki, Yasuko Ogata, Keiko Fujinami, Yuki Yonekura. Development of a Shortened Version of the Nurse Managers' Empowering Behavioral Scale for Staff Nurses *Healthcare*. 2022.10;
3. Yasuko Ogata, Kana Sato, Miki Sasaki, Keiko Fujinami, Taisuke Togari. Association between nursing practice environment and sense of coherence among staff nurses: A cross-sectional study in Japan *Journal of Nursing Management*. 2022.07; 30(7); 3149-3159
4. Yoko Mori, Miki Sasaki, Yasuko Ogata, Taisuke Togari. The development and validation of the Japanese version of job satisfaction scale: a cross-sectional study on home healthcare nurses *BMC Res Notes*. 2022.06; 15(205);
5. Ryohei Kida, Keiko Fujinami, Yoshie Yumoto, Taisuke Togari, Yasuko Ogata. The association between burnout and multiple roles at work and in the family among female Japanese nurses: a cross-sectional study. *Industrial Health*. 2022.05;
6. Itoh S, Tan HP, Kudo K, Ogata Y. Comparison of the Mental Burden on Nursing Care Providers With and Without Mat-Type Sleep State Sensors at a Nursing Home in Tokyo, Japan: Quasi-Experimental Study. *JMIR aging*. 2022.03; 5(1); e19641
1. 森脇 睦子, 額賀 みのり, 野田 京花, 佐々木 美樹, 林田 賢史, 緒方 泰子. 脳梗塞で自宅から入院した高齢患者における、自宅外退院に影響する要因の検討 DPC データを用いた後方視的分析 *日本医療マネジメント学会雑誌*. 2022.12; 23(3); 136-143
2. 長井聡子, 大河原知嘉子, 湯本淑江, 緒方泰子. スタッフ看護師の“いきいきと働く”経験に影響した個人および仕事に関する要因：半構造的インタビューにもとづく内容分析 *日本医療・病院管理学会誌*. 2022.10; 59(4); 168-176

3. 大山裕美子, 奥村朱美, 岩崎弓子, 佐藤可奈, 森 陽子. 訪問看護事業所に非常勤として就労した看護師の適応に関する経験: 質的研究 日本看護科学会誌. 2022.10; 42; 623-631
4. Yumoto Yoshie, Hiroshima Natsuko, Sasaki Miki, Fujinami Keiko, Otsuka Saki, Togari Taisuke, Edvardsson David, Ogata Yasuko. Reliability and validity of the Japanese version of the Person-Centered Care Assessment Tool GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL. 2022.02;
5. 野田 京花, 森脇 睦子, 額賀 みどり, 佐々木 美樹, 山内 和志, 林田 賢史, 緒方 泰子. 自宅から入院した高齢患者の自宅外退院に影響する要因の検討: 誤嚥性肺炎を例に 日本医療・病院管理学会誌. 2022; 59(3);

[講演・口頭発表等]

1. Y. Yumoto, C. Okawara, M. Sasaki, Y. Kawamoto and Y. Ogata. Content Analysis of Burdensome Symptoms and States of People with Dementia at End Of Life in Japan. 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics IAGG 2022 2022.06.12 Web 開催
2. Seira TAKADA, Yasuko OGATA, Yoshie YUMOTO. ADVANCE CARE PLANNING IN GROUP HOMES FOR PERSONS WITH DEMENTIA IN JAPAN: SURVEY OF ACTUAL PRACTICES. 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2022) 2022.06.12 WEB
3. Ayano Ito, Yasuko Ogata, Satoko Nagai, Yuki Yonekura. The relationship between work engagement, organizational justice, and the interaction effect of fatigue in hospital nurses. 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2022.04.21
1. 青山美紀子, 勝野とわ子, 出貝裕子, 森田牧子, 前田優貴乃. 若年認知症家族介護者の介護生活で経験する健康問題と対処. 第 42 回日本看護科学学会 2022.12.04
2. 緒方泰子. 自己を知り実践に活かすリフレクション—経験から学ぶ—. 札幌市立大学副師長研修会 2022.11.18 オンライン開催
3. 緒方泰子. シミュレーション医療教育における 心理的安全性の可能性. 第 10 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 2022.10.22 オンライン開催
4. 伊藤 絢乃. 心理的安全性をどう生み出すか-病院組織の COVID-19 患者対応を支える取り組みから見えること- 概念分析の結果からみえる心理的安全性の本質. 第 12 回 日本看護評価学会学術集会 2022.09.03
5. 佐々木 美樹, 緒方 泰子, 藤波 景子, 米倉 佑貴. 看護師長のスタッフ看護師へのエンパワリング行動尺度の短縮版の開発と検証. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
6. 加藤 美詞, 佐々木 美樹, 前田 優貴乃, 前田 留美, 藤波 景子, 緒方 泰子. 病院に勤務する看護職に対する職業性腰痛への介入と有効性に関する文献レビュー. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
7. 松村 いつみ, 森脇 睦子, 大成 佳純, 緒方 泰子, 佐々木 美樹. 大腿骨近位部骨折患者における ADL 回復過程の可視化と関連する施設要因の検討—DPC データを用いた探索的分析—. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
8. 山崎 綾香, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 看護管理者のマネジメント上の困難と学習ニーズに関する質的分析. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
9. 緒方泰子, 佐々木美樹, 伊藤絢乃, 佐藤可奈, 藤波景子, 武富貴久子, 佐藤紀子. 「心理的安全性」とは何か: 看護管理者のマネジメント力を高める協働学習への応用. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 2022.08.19 福岡
10. 緒方 泰子. 心理的安全性をどう生み出すか-病院組織の COVID-19 患者対応を支える取り組みから見えること-. 日本看護評価学会学術集会講演抄録集 2022.08.01
11. 永井伶奈, 湯本淑江, 笹井佳奈, 緒方泰子. 認知症高齢者の無給介護者における介護肯定感とその要因との関連: 文献レビュー. 第 27 回日本在宅ケア学会学術集会 2022.07.30 東京、Web 開催
12. 浦下唯, 湯本淑江, 緒方泰子. 認知症高齢者における世代間交流の効果. 日本老年看護学会 第 27 回学術集会 2022.06.25 Web 開催
13. 高田聖果, 緒方泰子, 湯本淑江, 池田正臣. 認知症グループホームにおける看取りケア介護加算と看取りの質との関連の検討. 日本老年看護学会 第 27 回学術集会 2022.06.25 WEB

14. 大成 佳純, 森脇 睦子, 松村 いつみ, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 認知症による治療機会逸失の可能性のある疾患の探索的分析 DPC データを用いて. 日本認知症ケア学会誌 2022.04.01
15. Bette Mariani, 前田留美. シミュレーションリサーチループリックの日本での活用. 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 2022.02.19 オンライン開催

[Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD教材 日本語版監修(共著) 第1巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第2巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010年04月 - 現在

[その他業績]

1. (前田) 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 企画実行委員, 2022年02月
第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会において企画実行委員を務め、主に国際委員会企画講演「シミュレーション・リサーチ・ループリック(SRR)の日本での活用」の企画、翻訳動画作成、SRRの概要紹介を行った。
2. (前田) 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 座長, 2022年02月
第3回日本看護シミュレーションラーニング学会において、一般演題「第7群 学びの統合」の座長をつとめた。

[社会貢献活動]

1. 公立大学法人東京都立大学非常勤講師(緒方), 2007年04月01日 - 現在
2. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員(緒方), 2007年05月29日 - 現在
3. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(森陽子), 2014年03月 - 現在
4. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(湯本), 2014年03月 - 現在
5. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(藤波), 2014年03月14日 - 現在
6. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員(前田), 2015年04月01日 - 現在
7. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(佐々木美樹), 日本看護評価学会, 2016年03月 - 現在
8. 日本看護評価学会 幹事(森陽子), 2016年05月 - 現在
9. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員(前田), 2016年08月01日 - 現在
10. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員(前田), 2017年01月01日 - 現在
11. 社)日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員(前田), 2018年11月01日 - 現在
12. 日本看護管理学会評議員(緒方), 2019年04月01日 - 2022年12月31日
13. 日本看護評価学会編集委員会委員(緒方), 2019年04月01日 - 現在
14. 日本看護管理学会編集委員会委員(緒方), 2019年04月01日 - 現在
15. 文京保健所業務継続のための応援派遣(藤波), 2020年04月08日 - 現在
16. 日本医療・病院管理学会 執行部幹事(佐々木美樹), 日本医療・病院管理学会, 2020年05月 - 2022年03月31日
17. 第3回日本看護シミュレーションラーニング学会企画委員, 社)日本看護シミュレーションラーニング学会, オンライン開催, 2022年01月01日 - 2022年02月28日
18. 第12回日本看護評価学会学術学会実行委員(陳), 日本看護評価学会学術学会, 2022年09月03日
19. マネジメントリーダーに基づく研修, 滋賀県看護協会, 滋賀県看護研修センター, 2022年09月12日
20. 日本医療・病院管理学会評議員、理事(緒方)

21. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師（緒方）
22. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長（緒方）
23. 東京慈恵会医科大学非常勤講師（緒方）
24. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長（緒方）

災害・クリティカルケア看護学分野

Department of Disaster and Critical Care Nursing

教授 佐々木 吉子
准教授 今津 陽子
助教 野口 綾子
特任助教 濱舘 陽子（4月から）
事務補佐員 岡田 久美子

大学院生（博士5年一貫制）

<共同災害看護学専攻>

小曾根 京子

鴨田 玲子

鐘ヶ江 紗里

藤村 麻衣子

<災害・クリティカルケア看護学分野>

佐藤 由紀子（8月から）

劉 菲（8月から）

島本（富田） 亜沙子

家持 縁

佐藤 央（4月から）

佐々木 肇（4月から）

堀江 実佐（4月から）

(1) 分野概要

当分野は、2014年4月に、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」として、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学による共同教育課程（5年一貫制博士課程）が開設され、本学の「共同災害看護学専攻」として創設された。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる災害看護のグローバルリーダーを養成することを目標としてきた。2022年3月末までに5大学で52名が入学し、21名が修了して、教育や実践の現場で活躍している。

文科省事業の終了に伴い、2019年度の入学者を最後に同プログラムは学生募集を停止し、2021年度からは、新たに看護先進科学専攻の「災害・クリティカルケア看護学分野」として改組された。5大学災害看護コンソーシアムを組織し、災害看護グローバルリーダーの養成を継承するとともに、クリティカルケア看護の教育・研究にも携わり、日本看護系大学協議会より、クリティカルケア看護の高度実践看護師教育課程としての認定を受け、コースを開講しており、それぞれの領域における高度な実践力、研究力を備えた人材の育成に努めている。

(2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」「災害・クリティカルケア看護学分野」では、以下の研究に取り組んでいる。

1. 災害看護：
 - ・災害急性期における看護支援に関する研究
 - ・災害時要配慮者への災害の備えの支援に関する研究
 - ・がん患者と家族の災害への備えに関する研究

- ・大災害を体験した人々の経験の意味の探究
- ・大規模災害時の帰宅困難者対策
- ・臨床看護師の CBRNE 災害看護対応のための教材開発

2. クリティカルケア看護：

- ・外傷、重篤疾患の急激な発症や悪化、高侵襲治療により心身の危機的状況にある患者、家族の体験に関する研究
- ・重症で意思疎通が困難な患者の看護ニーズの探究とケアに関する研究
- ・COVID-19 の重症患者ケアに関する研究
- ・一般病棟患者の重症化を予防するための Rapid Response System と Early Warning System に関する研究
- ・PICS、PICS-F に関する研究

(3) 教育活動

学部教育では、医学部保健衛生学科看護学専攻1年次後期の「看護の統合と実践Ⅰ」、4年次前期の「看護の統合と実践Ⅱ」、「看護の統合と実践実習」を担当している。看護の統合と実践Ⅰでは、看護専門職に必要とされる知識・技術・態度について学生自らが考え、看護観を育み、短期的、長期的な自身の学修およびキャリアプランについて検討することを目的とし様々な看護職からの講義やディスカッションを通して学んでいる。4年次の看護の統合と実践Ⅱでは、専門職に必要とされる知識・技術・態度について、3年次までの学修内容に看護倫理やマネジメントの視点を含めて熟考・統合し、看護観を発展させ、短期的、長期的な自身のキャリアプランを明確にし、さらに卒後数年間のアクションプランを検討することを目的とし、看護倫理、看護マネジメント、医療制度・経済の専門家から講義を受けて知識を深めるとともに、組織において多職種と連携しながら看護が果たす役割について考察する。さらに、看護の統合と実践実習では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、既習の知識や技術を基盤として、現場の看護職に求められる知識・技術・態度についてあらためて考察し、学生自らの課題を見出し、総合的な看護実践能力を高めている。

大学院では、「共同災害看護学専攻」および「看護先進科学専攻」において、災害看護グローバルリーダー (DNGL) を志す学生に対して、求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育研究者を養成している。また、クリティカルケア看護の卓越した実践者、あるいは教育・研究者を志す学生に対しては、危機的状態にある対象の顕在、潜在する問題や看護支援ニーズを読み取り、的確に対応し解決できる人材を養成するため、「急性・重症患者看護高度実践看護師」の教育コースを開講している。

(4) 教育方針

学部教育では、看護専門職に求められる知識・技術・態度、看護観について学生自身が4年間の学修を通して育み、既習の知識や技術を基盤とした総合的な臨床実践能力を有する実践者を養成することを目標としている。最終学年である4年次生の2科目では、既習の知識・技術を基に総合的な臨床実践能力を養成するため、シミュレーション教育、実習を配置する。

大学院教育では、修了後は災害看護もしくはクリティカルケア看護の領域で、実践者もしくは教育研究者として自立し、国際社会でも活躍できる高いコミュニケーション力を携え、リーダーシップを発揮することのできる人材を養成することを目標としている。そのため、学生の主体的な学修や研究への取り組みを重視するとともに、多様な学びの機会を支援する。

(5) 臨床活動および学外活動

1. 災害看護

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わっている弘前大学との交流や、災害看護コンソーシアムを構成する大学間の交流をはかっている。また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。当分野が力を入れている帰宅困難者対策については、2021年度大学提案事業に採択され、2022年4月から3年間、東京都総合防災部と連携し、「大規模災害発生時の帰宅困難者民間一時滞在施設の対応力強化支援事業」を行っている。

2. クリティカルケア看護

大学病院の集中治療部、ERセンターとの交流や、臨床課題に関する共同研究を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Sasaki Y, Nakakuki K, Ikeda M, Sumi Y, Miura H, Imazu Y, Otomo Y. Undergraduate medical and dental science students' interest and support needs in medical volunteer activities during times of disasters Japanese Journal of Disaster Medicine. 2022.04; 27; 102-109
1. 碓井瑠衣, 今津陽子, 松山奈央, 竹林早苗, 青盛真紀, 加藤英明, 寒川整, 中島秀明, 渡部節子. 多剤併用療法をうける HIV/AIDS 患者における中長期にわたる看護支援の実態—エイズ治療中核拠点病院の5年間の診療録分析から— 日本エイズ学会誌. 2022.02; 24(1); 5-12

[総説]

1. 今津 陽子, 菅野 久美, 中山 祐紀子, 長谷川 久巳, 荒尾 晴恵. 第36回日本がん看護学会学術集会災害対策委員会主催研修会報告—COVID-19 対策 その先に— 日本がん看護学会誌. 2022.06; 36; 98-100

[講演・口頭発表等]

1. 近藤麻理, 河原宣子, 牛久保美津子, 今津陽子, 神原咲子, 近藤暁子. COVID-19 感染拡大における看護教員や看護職の派遣支援について. 第42回日本看護科学学会学術集会 2022.12.04 広島県広島市
2. 神原咲子, 今津陽子, 内木美恵, 山本あい子, 中島麻紀. SDG s 及び仙台防災枠組の国際動向を踏まえた災害看護の方向性. 日本災害看護学会第24回年次大会 2022.09 オンライン
3. 今津陽子. がん患者学会 2022 での講演「がん医療・がん患者の災害対策」. 一般社団法人全国がん患者団体連合会「がん患者学会 2022」 2022.08.21 オンライン
4. 佐々木吉子. COVID-19 パンデミック禍の諸外国における命の選択の考え方と日本において必要な検討. 日本集中治療医学会第6回関東甲信越支部学術集会 2022.07.16 神奈川県
5. 中野梨香子, 曾根田ますみ, 小峯万里, 石山千明, 山下直美, 野口綾子, 平川晃弘, 佐藤宏征. A 病院集中治療部における身体拘束減少へ向けた適正化への取り組み<看護師を対象とした前向き調査より>. 第49回日本集中治療医学会学術集会 2022.03.19 仙台
6. 川添高志, 中山祐紀子, 笠谷美保, 今津陽子, 荒尾晴恵. 日本がん看護学会災害対策委員会主催研修会「COVID-19 対策 その先へ」～新たなケア提供方法の創造～. 第36回日本がん看護学会学術集会 2022.02.20 神奈川県横浜市
7. 今津陽子, 風間郁子, 村松真実, 笠谷美保, 中信利恵子, 菅野久美, 菅原よしえ, 岸田さな江, 山田希, 加賀美千津, 岩永和代, 三浦浅子, 天野薫, 村上富由子, 佐藤大介. 日本がん看護学会 SIG 災害がん看護グループ主催交流会「被災後に治療継続が困難になったがん患者さんへのサポートを考える～被災したがん患者さんを助けるお金とくらしの話～」. 第36回日本がん看護学会学術集会 2022.02.20 神奈川県横浜市
8. 菅野久美, 今津陽子. がん薬物療法における災害看護シミュレーション教材の評価に関する文献検討. 第36回日本がん看護学会学術集会 2022.02.20 神奈川県横浜市
9. 岩井典子, 渡邊眞理, 菅野雄介, 林糸り子, 今津陽子. 造血器腫瘍患者の療養場所選択に向けた病棟看護師が行う再発時期からの End-of-life discussions. 第36回日本がん看護学会学術集会 2022.02.19 神奈川県横浜市

[Works]

1. 日本クリティカルケア看護学会 COVID-19 重症患者看護実践ガイドの作成 (分担; 佐々木吉子), その他, 2020年04月 - 現在
2. 日本がん看護学会 COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) に伴う 外来がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践の手引き (第2.0版) の作成 (今津陽子), その他, 2022年12月
3. 日本がん看護学会 新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大に伴うがん治療・看護への長期的な影響と支援ニーズに関する調査結果概要 (今津陽子), その他, 2022年12月

[その他業績]

1. 令和4-6年度_大規模災害時の帰宅困難者民間一時滞在施設の対応力強化支援事業（提案者：佐々木吉子、今津陽子），2022年04月
令和4年度大学研究者による提案事業（東京都）
2. 災害医療の現状と私たちができる備え（鐘ヶ江紗里），2022年05月
文京区町会長等の自治組織から依頼を受け、市民レベルでの防災について講演

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学病院研究支援（佐々木吉子），2005年10月 - 現在
2. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース（佐々木吉子），日本看護協会，2010年 - 現在
3. ラオス国保健医療ボランティア活動団体への支援（小曾根京子，鐘ヶ江紗里），Plumerian，2020年02月 - 2022年03月31日
4. 東京医科歯科大学病院研究支援（今津陽子），2020年04月 - 現在
5. 東京慈恵会医科大学医学部看護学科非常勤講師（災害看護学；佐々木吉子），2020年04月01日 - 現在
6. 文京区防災活動（鐘ヶ江紗里），2021年04月01日 - 現在
7. 神奈川県看護協会災害救護対策委員会アドバイザー（佐々木吉子），神奈川県看護協会，2021年06月01日 - 現在
8. NPO法人 さーくる横須賀 支援者育成塾（小曾根京子），NPO法人 さーくる横須賀，2022年01月13日
9. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣（大久保功子、緒方泰子、佐々木吉子、田中真琴、近藤暁子、森田久美子、山崎智子、高野歩、佐々木美樹、野口麻衣子、今津陽子、三隅順子、大河原知嘉子、藤波景子），2022年01月21日 - 2022年03月23日
10. 県営かもめ団地 2021年度第2回防災協力員講習会（小曾根京子），県営かもめ団地集会所，2022年02月21日
11. 第27回日本災害医学会学術集会 一般演題座長（佐々木吉子），日本災害医学会，2022年03月05日
12. 県営かもめ団地 2022年度第1回階段代表者向け防災講習会（小曾根京子），県営かもめ団地自治会，県営かもめ団地集会所，2022年05月19日 - 2022年05月20日
13. 神奈川県看護協会災害救護対策委員会アドバイザー（佐々木吉子），2022年06月01日 - 現在
14. 第18回日本クリティカルケア看護学会優秀演題セッション座長（佐々木吉子），第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会，北九州国際会議場，2022年06月11日
15. NPO ふるさとの会 2022年度防災訓練（小曾根京子），台東区内，2022年07月11日
16. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣（佐々木吉子、近藤暁子、森田久美子、野口麻衣子、今津陽子、菅野雄介、廣山奈津子、濱館陽子），2022年08月04日 - 2022年08月29日
17. 令和4年度東京駅周辺防災隣組・千代田区医師会・三菱地所株式会社との三者医療連携訓練への参加（佐々木吉子、今津陽子、濱館陽子、鴨田玲子），東京駅周辺，2022年09月01日
18. 国際看護学授業（小曾根京子），東京女子医科大学看護学部，東京女子医科大学看護学部，2022年10月05日
19. 第24回日本救急看護学会学術集会 教育講演座長（佐々木吉子），第24回日本クリティカルケア看護学会学術集会，TFTビル（東京都江東区），2022年10月15日
20. 千代田区社会福祉協議会災害ボランティアセンター開設運営訓練参加（濱館陽子），2022年11月01日

Ⅲ.2022 年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

2022年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学)59名

	学 生 氏 名	論 文 題 目
1	大 橋 京 子	病院で働く看護職者における組織的公正と Sense of Coherence の関連—臨床経験年数における比較—
2	勝 俣 綾	病院で働く看護職者の心理的エンパワーメントと離職意図および離職との関連
3	久 保 杏 奈	病院で働く新人看護師のソーシャルサポートとワーク・エンゲイジメントとの関連
4	高 江 明 日 香	重症度、医療・看護必要度を活用した入院期間中の大腿骨近位部骨折に影響する発症直前のリスク因子の検討
5	古 澤 夏 美	COVID-19 患者受け入れ病院の看護スタッフが感じた職務上の困難に関する質的研究
6	松 井 才 紀	認知症高齢者のアドバンス・ケア・プランニングを行う上での困難と、本人の意思を反映させるための対応・工夫
7	石 橋 美 紗 樹	日本の看護職の大学院への進学ニーズ・進学の阻害要因に関する文献検討
8	片 山 美 菜	周麻酔期看護師の実践内容に関する文献レビュー
9	桐 下 結 衣	地域住民の認知症に対する知識・態度・行動に関する文献レビュー～地域の特徴による比較～
10	国 吉 英 恵	看護職・看護学生の性的マイノリティへの理解を促進する教育に関する文献レビュー
11	小 鮎 志 乃	NDB オープンデータを用いた「がん患者指導管理料イ」算定の地理的分布とがん看護専門看護師の配置状況との関連
12	小 矢 島 陽	クリティカルケア分野の認定・専門看護師の地理的分布～過去 26 年間の年次推移～
13	高 橋 知 聖	医療機関・介護保険施設・訪問看護ステーションの管理者が求める看護人材像：全国調査データを用いた質的研究
14	城 内 望	COVID-19 流行下での精神科における家族支援：インタビュー調査
15	西 村 美 咲	妊娠期に行う水中運動の周産期うつ症状に対する効果：文献レビュー
16	本 多 遥 香	COVID-19 流行下での精神看護ケアの実施における困難感：インタビュー調査
17	森 安 杏 菜	ゲーム障害を有する精神科デイケア利用者に対する看護師による支援：インタビュー調査
18	小 川 華 奈	Covid-19 流行下の虐待予防を目的とした家庭への介入に関する文献検討
19	竹 川 里 咲	小児の痛みを伴う処置に対するディストラクションにおける XR の有効性
20	宮 村 菜 々 夏	1 型糖尿病患者が療養行動を習得する過程で抱える課題
21	井 上 昌 美	NICU・PICU に入院する児のきょうだいへの看護支援に関する文献検討
22	小 泉 凜 果	成人学習理論に基づく両親学級プログラムの作成とその評価に関するプロトコール論文
23	小 林 美 玲	新型出生前診断受検前後の女性の経験に関する質的研究の文献検討
24	相 川 七 海	日本における人工妊娠中絶の方法に対する女性の知識と認識
25	上 野 華 子	低容量ピル服用時に女子大学生が遭遇する困難の質的研究
26	石 川 瞳	コロナ禍における「居場所づくり」としての子ども食堂の実践
27	若 林 佳 奈	子育て支援団体が行った「20 歳からの健康診査」の 1 年間の啓発活動の評価と今後の戦略
28	坪 井 二 千 夏	健診習慣のない子育て世代の被扶養者女性に対する「20 歳からの健康診査」の受診促進方法の検討
29	友 定 あ い	ストレスチェックで高ストレスと判定された労働者に対する産業保健師の取り組み

	氏名	論文題目
30	長澤帆花	精神障害者の親に対して保健師が行う親なき後の生活に向けた支援内容
31	西谷悠	女性看護師のワークライフバランスの実現に必要な職場支援の検討—結婚・妊娠・出産・育児と看護職キャリアの維持・向上のために—
32	石川優子	医療系学生の喫煙率の低さとその要因について
33	酒井真子	認知症者を介護する家族の「コミュニケーションにおける困りごと」に関する調査
34	佐々木理奈	若手看護師のキャリア形成に対する関心とその背景について
35	原口咲	失語症患者とのコミュニケーションにおける看護師に必要な知識や技術や態度に関する文献検討
36	日高未紗	日本とフィンランドにおける終末期医療や看取りの現状に関する文献検討
37	三枝なつみ	訪問看護師がアセスメントした望ましい訪問頻度と実際の訪問頻度の差異に関連する要因
38	佐藤史織	訪問看護師が捉えた利用者の身体状態改善に関連する要因
39	小林あみ	訪問看護ステーションの規模別にみた教育・支援体制と離職数の関連
40	西川史	終末期がん患者の亡くなる2週間前にあった症状と看取りの質の関連
41	辻浦真唯	在宅療養がん患者の看取り期において訪問看護師が介護職に対して行った支援と協働への満足度との関連
42	長谷川絵美	在宅終末期医療を提供する訪問看護師のターミナルケア態度に関連する要因
43	高山優果	一般住民が在宅緩和ケアの実施が不可能であると認識することの関連要因
44	高田侑李	40歳以上の一般市民における Advance Care Planning 実施の関連要因
45	山田侑歩	がん患者の疼痛緩和に対するアロマセラピーの有用性に関する文献検討
46	加藤有菜	クローン病患者における症状誘発食品に対する認識の程度とセルフケアに関する自己効力感の関連
47	松永萌伽	病棟看護師が関わる内服に関連したインシデント・アクシデントへの取組みに関する文献検討
48	近藤優衣	終末期における ALS 患者の苦痛緩和のために看護師が行う支援に関する文献検討
49	太神奈々	過敏性肺炎患者の家族の体験と医療に対するニーズの分析
50	中濱優香	過敏性肺炎患者の抱える医療支援ニーズの分析
51	野澤香凜	病棟看護師による退院支援に対する患者・家族の評価に関する文献検討
52	岩本莉子	関節リウマチ患者へのフットケアで看護師が感じる困難に関するインタビュー調査
53	藤井実穂子	災害後における学童期の子どもの心身への影響
54	伊藤望	在宅療養を継続するために訪問看護師が行う災害時を見据えた取り組みと課題
55	見上千乃	看護学生の防災対策の課題と求めているニーズ
56	時任舞	精神障がい者の避難時における困難と支援の現状
57	嘉本羽奈	ICU 看護師が行うせん妄のアセスメントの実際
58	井上七海	救急外来・ICU における急変した患者家族のニーズと看護師が行う家族ケアの現状
59	甲斐未扉	患者の急変に対する看護師の不安と軽減するための教育に関する文献レビュー

IV. 2022 年度大学院保健衛生学研究科博士課程

課題研究題目一覧表

2022年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文一覧表

○修士（看護学）8名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	千 恵 琳	看護先進科学専攻	近藤 暁子	The resilience of critical care nurses: a scoping review	田中 真琴	佐々木 吉子	高野 歩
2	小 田 清 花	看護先進科学専攻	田中 真琴	死前喘鳴を有する患者とその家族への病棟での看護実践に関するデルファイ調査	月野木 ルミ	佐々木 吉子	今津 陽子
3	家 持 緑	看護先進科学専攻	佐々木 吉子	被災自治体職員の自然災害に関連したストレスの要因と影響：スコopingレビュー	月野木 ルミ	佐々木 美樹	津田 紫緒
4	佐 藤 文 敬	看護先進科学専攻	岡光 基子	在宅で医療的ケア児を養育する親のメンタルヘルス：スコopingレビュー	福井 小紀子	野口 麻衣子	今津 陽子
5	奈 良 麻 結	看護先進科学専攻	高野 歩	精神疾患を持つ人々における非自発的入院中の医療スタッフとの治的関係セルティグマに関する研究：中間報告	柏木 聖代	野口 麻衣子	森岡 典子
6	野 澤 美 奈	看護先進科学専攻	田中 真琴	心不全入院患者が持つ退院前の知識の実態と知識を評価する測定用具に関するスコopingレビュー	緒方 泰子	柏木 聖代	佐々木 美樹
7	朴 美 慧	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Factors related to Disaster Preparedness of Immigrants: A systematic review	佐々木 吉子	森田 久美子	高野 歩
8	平 井 寛 季	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Effects of LGBTQ+ lecture for Japanese nursing student knowledge and attitude: a randomized control trial	福井 小紀子	川上 明希	三隅 順子

課程博士

○博士（看護学）8名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	鈴木 由美子	看護先進科学 (リプロダクティブヘルス看護学)	大久保 功子	Lived experiences of women with memories of childbirth	佐々木 吉子	柏木 聖代	森田 久美子
2	川 島 徹 治	看護先進科学 (先端侵襲緩和ケア看護学分野)	田中 真琴	Development of the nursing practice scale for end-of-life family conferences in critical care	緒方 泰子	佐々木 吉子	岡光 基子
3	本 田 順 子	看護先進科学 (地域保健看護学分野)	月野木 ルミ	Aspects of Emotional Labor of Public Health Nurses Engaged in Interpersonal Support	緒方 泰子	柏木 聖代	高野 歩
4	ABULIEZI RENAGULI	看護先進科学 (国際看護開発学分野)	近藤 暁子	Healthcare graduate students' perceived control and preventive behavior for COVID-19 in Japan and the United States: A cross-sectional study	佐々木 吉子	藤原 武男	森田 久美子
5	長 井 聡 子	看護先進科学 (高齢社会看護システム管理学分野)	緒方 泰子	A Longitudinal Study of the Impact of Personal and Professional Resources on Nurses' Work Engagement: A Comparison of Early-Career and Mid-Later-Career Nurses	田中 真琴	月野木 ルミ	松長 麻美
6	蘆 田 薫	看護先進科学 (先端侵襲緩和ケア看護学分野)	田中 真琴	Moral distress reduction using moral case deliberation in Japan: A mixed-methods study	月野木 ルミ	柏木 聖代	佐々木 美樹
7	藤 村 麻 衣 子	共同災害看護学	佐々木 吉子	パンデミック禍の集中治療室において看護師が COVID 19 患者の尊厳を守ろうとする看護のプロセス	佐々木 吉子 (東京医科大学)	山田 覚 (高知県立大学) 増野 園恵 (兵庫県立大学)	尾立 篤子 (東邦大学) 竹内崇 (東京医科大学)
8	鐘ヶ江 紗里	共同災害看護学	佐々木 吉子	災害に脆弱なコミュニティにおけるコミュニティヘルスワーカーの実践とコミュニティレジリエンスとの関連シエラレオネ共和国のコミュニティエンゲージメントに着目して	佐々木 吉子 (東京医科大学)	梅田 麻希 (兵庫県立大学) 宮崎 美砂子 (千葉大学)	杉下 智彦 (東京女子医科大学) 中村 桂子 (東京医科大学)

論文博士

○博士（看護学）2名

	氏名	専攻	推薦教員	論文名	主査	副査	副査
1	川 本 祐 子		田中 真琴	Understanding the process of people with hypersensitivity pneumonitis implementing continuous antigen avoidance and their affecting situations: A grounded theory study	佐々木 吉子	角 勇樹	森田 久美子
2	松 浦 佳 代		高野 歩	A survey for examining the validity and reliability of the Japanese version of the Forensic Psychiatric Nursing Competence scale	柏木 聖代	岡田 幸之	佐々木 美樹

V. 委員会委員名簿

〔大学院〕

保健衛生学研究科長：福井
 大学院教育委員会委員長（看護）：佐々木（吉）
 大学院教育委員会委員長（検査）：伊藤
 看護学専攻主任：田中
 共同災害看護学専攻長：佐々木（吉）
 生体検査科学系教授会議長：角

〔学部〕

保健衛生学科長：角
 学部教育委員会委員長：齋藤
 看護学専攻主任：田中
 検査技術学専攻主任：伊藤

☆責任者 ○副責任者 ()オブザーバー

大学院教育委員会	【看】	☆佐々木(吉)、福井、柏木、森田、岡光（近藤、川上、佐々木(美)、松長）	
	【検】	☆伊藤、角、星、柿沼、鈴木、西尾、副島、太田	
学部教育委員会		☆齋藤、角、伊藤、大川、柿沼、緒方、柏木、田中、月野木（福井、高野、廣岡）	
国際教育・研究センター	【看】	☆近藤、高野、津田、廣岡、川上	
	【検】	○大川、齋藤、鈴木、西尾、副島	
海外学生交流受入・遠隔交流 WG	【検】	☆大川、齋藤、鈴木、西尾、副島、亀田	
統合教育多職種連携教育 WG	【看】	☆田中、今津、(科目担当) 佐々木(吉)、今津、野口(綾)、森岡	
統計・データサイエンス WG		【検】角、【看】森田	
医歯学融合教育委員会	【検】	柿沼、西尾、（シナリオ作成 TF）副島、藤代、亀田、太田、赤座、田中	
教育開発チーム XR タスクフォース	【看】	☆田中、○森岡、（看護学専攻内）三隅、津田、矢郷、川本、大河原、福元	
学部カリキュラム委員会	【看】	☆柏木、○月野木、田中、佐々木(吉)、野口(麻)、緒方、近藤、川上、高野、岡光、松長	
	【検】	☆齋藤、角、太田、田中	
CBT/OSCE 導入・スキルスラボ検討委員会	【検】	☆大川、柿沼、副島、藤代、亀田、赤座、田中	
実習・臨地実習担当委員会	【看】	☆川上、○森岡、○矢郷、廣岡、高野、今津、佐々木(美)、野口(麻)、三隅、大河原、川本、栗林、津田、野口(綾)、廣山、湯本、松長、福元（菅野）	
	【検】	☆齋藤、大川、西尾、副島、赤座、亀田、太田、田中	
卒業論文委員会	【看】	☆佐々木(美)、森田、廣山、矢郷、川本、福元	
卒業研究委員会	【検】	☆鈴木、星、副島、本間、山口	
進路指導委員会	【看】	3・4年生学年担任	
	【検】	☆大川、鈴木、西尾、本間、太田、田中	
国試対策委員会	【看】	☆松長、森岡	
	【検】	☆大川、副島、本間、亀田、藤代、太田、赤座、山口、田中	
進級判定・卒業試験委員会（新設）	【検】	☆星、本間、藤代、山口（判定会議は全教授、准教授、講師）	
図書・広報委員	【看】	☆月野木、湯本	
学年担任		【看】	【検】
・1年生（34回生）		川上、湯本	星
・2年生（33回生）		岡光、森岡	柿沼
・3年生（32回生）		佐々木（美）、津田（進路指導担当）	西尾
・4年生（31回生）		柏木、廣山（進路指導担当）	鈴木
試験監督調整委員		松長	☆副島、本間、赤座、藤代、亀田、太田、山口
親睦会・会計		☆三隅、川本、福元	☆柿沼、伊藤、赤座、亀田、山口、田中
保健衛生学科 FD 委員会	【看】	☆岡光、野口（綾）、廣山	☆柿沼、西尾
LAN・ホームページ担当 WG		☆三隅、大河原	
LAN・ホームページ・広報担当委員会			☆西尾、角、本間、藤代、山口
自己点検・評価委員会	【看】	☆緒方、高野、大河原、矢郷	
	【検】	☆伊藤、本間	
生体検査科学セミナー・リサーチカンファ委員会	【検】	☆鈴木、伊藤、藤代、太田、赤座、山口	
オープンキャンパス・受験生対策 WG	【看】	☆野口(麻)、松長、川本、大河原、湯本、栗林（オープンキャンパス当日は全分野の助教）、菅野	
	【検】	☆西尾、角、本間、赤座、藤代、亀田（オープンキャンパス当日は副島、全助教）	
医歯学附属病院研究支援	【看】	☆高野、廣岡、野口(綾)、菅野	

*定期的に情報共有。例：①各委員長・大学院教育委員長・学部教育委員長・研究科長 →②全教授（→③全教員）

VI. 就職状況一覧表（2023年3月卒業・修了者）

就職状況一覧表

2023.5.1現在

(看護先進看護学・共同災害看護学)

区分		学部 (看護学)		大学院		
				博士課程		
		小計	合計	小計	合計	
進学	本学	1	6		1	
	本学以外	5		1		
就職	看護師	本学	44	53	7	
		本学以外	7			2
	保健師		2			
	助産師					
	助教(大学機関)					2
	助手(大学機関)					
	講師(大学機関)					1
	その他					2
その他(不明)			0		0	
合計			59		8	

東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報

2022年度

保健衛生学研究科教育委員

佐々木 吉子 委員長

福井 小紀子

柏木 聖代

森田 久美子

岡光 基子

発行
編集・発行

2024年1月

東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>